

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者		ヨリツガ' 信' ヲホジ'ン ヲホシヤ' 信' ヲ								
フリガナ大学の名称		ヨホシヤ' 信' ヲホシ' ヲホ' ヲ								
大学の本部の位置		栃木県宇都宮市峰町350								
大学の目的		宇都宮大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設研究科等の目的		21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、情報工学、データサイエンス、経営情報学の専門性を有し、DXの推進に貢献できる高度専門職業人の育成を目的としている。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 工学部、データサイエンス経営学部  14条特例の実施
	地域創生科学研究科 総合情報学専攻	年	人	年次人	人	修士（工学） 修士（経営情報学）	工学関係 経済学関係	令和8年 4月 第1年次	栃木県宇都宮市 峰町350 栃木県宇都宮市 陽東7-1-2	
計		2	61	—	122					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>入学定員の変更 地域創生科学研究科 工農総合科学専攻[定員減] (△41) (令和8年4月)</li> <li>当該申請等以外の申請等 農学部 フロンティア食品科学科 (37) (令和7年4月事前相談済み) (令和7年7月届出予定) 生物生産イノベーション科学科 (56) (令和7年4月事前相談済み) (令和7年7月届出予定) 環境システム科学科 (51) (令和7年4月事前相談済み) (令和7年7月届出予定) エコロジカル社会経済学科 (36) (令和7年4月事前相談済み) (令和7年7月届出予定) (3年次編入学定員) (15)</li> <li>生物資源科学科 (廃止) (△58) 応用生命化学科 (廃止) (△30) 農業環境工学科 (廃止) (△30) 農業経済学科 (廃止) (△33) 森林科学科 (廃止) (△29) (3年次編入学定員) (△15)</li> <li>※令和8年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止)</li> </ul>								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	地域創生科学研究科 総合情報学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		57科目	16科目	7科目	80科目					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新分	地域創生科学研究科 総合情報学専攻	15人 (15人)	10人 (10人)	0人 (0人)	6人 (6人)	31人 (31人)	0人 (0人)	0人 (0人)		
	計	15人 (15人)	10人 (10人)	0人 (0人)	6人 (6人)	31人 (31人)	0人 (0人)	0人 (0人)		

設 分	地域創生科学研究科（博士前期課程） 社会デザイン科学専攻	51人 (41人)	45人 (45人)	1人 (1人)	18人 (18人)	115人 (105人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	工農総合科学専攻	61人 (52人)	58人 (56人)	3人 (3人)	22人 (21人)	144人 (132人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	地域創生科学研究科（博士後期課程） 先端融合科学専攻	70人 (58人)	54人 (53人)	0人 (0人)	0人 (0人)	124人 (111人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	教育学研究科（専門職学位課程） 教育実践高度化専攻	6人 (6人)	3人 (3人)	0人 (0人)	2人 (2人)	11人 (11人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	研究推進機構	4人 (4人)	9人 (9人)	0人 (0人)	2人 (2人)	15人 (15人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	大学教育推進機構	2人 (2人)	3人 (3人)	0人 (0人)	0人 (0人)	5人 (5人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	地域創生推進機構	1人 (1人)	1人 (1人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (2人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	アドミッションセンター	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	高大連携オフィス	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	就職・キャリア支援センター	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (1人)	0人 (0人)	1人 (1人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	留学生・国際交流センター	1人 (1人)	1人 (1人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (2人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	DE&I推進センター	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	情報通信基盤センター	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (1人)	1人 (1人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	保健管理センター	1人 (1人)	1人 (1人)	0人 (0人)	0人 (0人)	2人 (2人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	附属図書館	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	計	197人 (166人)	175人 (172人)	5人 (5人)	45人 (44人)	422人 (387人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	合計	212人 (181人)	185人 (182人)	5人 (5人)	51人 (50人)	453人 (418人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	職 種	専 属		そ の 他		計			
	事 務 職 員	165 (165)		102 (102)		267 (267)			
	技 術 職 員	56 (56)		36 (36)		92 (92)			
図 書 館 職 員	2 (2)		10 (10)		12 (12)				
そ の 他 の 職 員	5 (5)		26 (26)		31 (31)				
指 導 補 助 者	0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計	228 (228)		174 (174)		402 (402)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	341,419 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		341,419 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	8,575,430 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		8,575,430 m <sup>2</sup>			
	合 計	8,916,849 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		8,916,849 m <sup>2</sup>			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	121,086 m <sup>2</sup> (121,086 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		121,086 m <sup>2</sup> (121,086 m <sup>2</sup> )				
講 義 室 等 ・ 新 設 研 究 科 等 の 専 任 教 員 研 究 室	講 義 室	実 験 ・ 実 習 室	演 習 室		新 設 研 究 科 等 の 専 任 教 員 研 究 室				
	77室	296室	97室		31室				
図 書 ・ 設 備	新 設 研 究 科 等 の 名 称	図 書		学 術 雑 誌		機 械 ・ 器 具	標 本		
		〔うち外国書〕 冊	電 子 図 書 〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電 子 ジャーナル 〔うち外国書〕 種	点	点		
	地域創生科学研究科	616,861 [133,079] (610,261 [132,551])	2,835 [2,499] (2,835 [2,499])	12,025 [3,185] (11,344 [3,005])	7,544 [7,539] (7,544 [7,539])	19,739 (19,739)	0 (0)		
	計	616,861 [133,079] (610,261 [132,551])	2,835 [2,499] (2,835 [2,499])	12,025 [3,185] (11,344 [3,005])	7,544 [7,539] (7,544 [7,539])	19,739 (19,739)	0 (0)		
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 前 年 度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—			
	学生1人当り 納付金			第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	
学生納付金以外の維持方法の概要			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		

大学等の名称	宇都宮大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
データサイエンス経営学部							1.10 ≪1.10≫	令和6年度	栃木県宇都宮市峰町350	※令和6年度より学生募集開始
データサイエンス経営学科	4	55	3年次	3	110	学士(経営情報学)	1.10 ≪1.10≫	令和6年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	
地域デザイン科学部							1.12 ≪1.18≫	平成28年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	
コミュニティデザイン学科	4	47	0		194	学士(コミュニティデザイン学)	1.08 ≪1.07≫	平成28年度		令和6年度入学定員減(△3人)
建築都市デザイン学科	4	47	3年次	3	200	学士(工学)	1.16 ≪1.11≫	平成28年度		令和6年度入学定員減(△3人)
社会基盤デザイン学科	4	37	3年次	3	160	学士(工学)	1.10 ≪1.05≫	平成28年度		令和6年度入学定員減(△3人)
国際学部							1.21 ≪1.13≫	平成6年度	栃木県宇都宮市峰町350	
国際学科	4	84	3年次	10	368	学士(国際学)	1.21 ≪1.13≫	平成29年度		令和6年度入学定員減(△6人)
共同教育学部							1.05 ≪1.03≫	令和2年度	栃木県宇都宮市峰町350	※令和2年度より学生募集開始
学校教育教員養成課程	4	170	0		680	学士(教育学)	1.05 ≪1.03≫	令和2年度		
教育学部							—	昭和41年度	栃木県宇都宮市峰町350	※令和2年度より学生募集停止
学校教育教員養成課程	4	—	—	—	—	学士(教育学)	—	平成11年度		
工学部							1.12 ≪1.06≫		栃木県宇都宮市陽東7-1-2	
基盤工学科	4	290	3年次	26	1,262	学士(工学)	1.12 ≪1.06≫	平成31年度		令和6年度入学定員減(△25人)
機械システム工学科	4	—	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度		※平成31年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度		(機械システム工学科、電気電子工学科、応用化学科、情報工学科)
応用化学科	4	—	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度		
情報工学科	4	—	—	—	—	学士(工学)	—	昭和63年度		
農学部							1.12 ≪1.08≫		栃木県宇都宮市峰町350	
生物資源科学科	4	58	}		252	学士(農学)	1.11 ≪1.08≫	平成25年度		令和6年度入学定員減(△5人)
応用生命化学科	4	30			128	学士(農学)	1.16 ≪1.15≫	平成25年度		令和6年度入学定員減(△2人)
農業環境工学科	4	30			128	学士(農学)	1.06 ≪1.04≫	平成33年度		令和6年度入学定員減(△2人)
農業経済学科	4	33			144	学士(農学)	1.13 ≪1.09≫	昭和24年度		令和6年度入学定員減(△3人)
森林科学科	4	29			128	学士(農学)	1.14 ≪1.03≫	平成33年度		令和6年度入学定員減(△3人)
(学科共通)				3年次	15	30	学士(農学)			

既設大学等の状況

既設大学等の状況	地域創生科学研究科 (博士前期課程) 社会デザイン科学専攻	2	77	0	154	修士(学術) 修士(農学) 修士(工学) 修士(国際学)	1.10 1.06	平成31年度 平成31年度	栃木県宇都宮市峰町350 栃木県宇都宮市陽東7-1-2	
	工農総合科学専攻	2	258	0	516	修士(光工学) 修士(分子農学) 修士(工学) 修士(農学)	1.11	平成31年度		
	地域創生科学研究科 (博士後期課程) 先端融合科学専攻	3	25	0	75	博士(光工学) 博士(農学) 博士(工学) 博士(国際学) 博士(学術)	1.44 1.44	令和3年度 令和3年度	栃木県宇都宮市峰町350 栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※令和3年度より学生募集開始
	国際学研究科 (博士前期課程) 国際社会研究専攻	2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成11年度	栃木県宇都宮市峰町350	※平成31年度より学生募集停止
	国際文化研究専攻	2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成11年度		
	国際交流研究専攻	2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成11年度		
	国際学研究科 (博士後期課程) 国際学研究専攻	3	—	—	—	博士(国際学)	—	平成19年度 平成19年度	栃木県宇都宮市峰町350	※令和3年度より学生募集停止
	教育学研究科 (専門職学位課程) 教育実践高度化専攻	2	18	0	36	教職修士(専門職)	0.97 0.97	平成27年度 平成27年度	栃木県宇都宮市峰町350	
	工学研究科 (博士前期課程) 機械知能工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成4年度 平成10年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※平成31年度より学生募集停止
	電気電子システム工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年度		
	物質環境化学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年度		
	地球環境デザイン学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年度		
	情報システム科学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年度		
	先端光工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成27年度		
	工学研究科 (博士後期課程) システム創成工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成4年度 平成20年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※令和3年度より学生募集停止

<p>附属施設の概要</p>	<p>(附属学校)</p> <p>名称：共同教育学部附属幼稚園  目的：幼児教育の実証的研究を進めるとともに、遊びや生活を通して幼児の心身の活動力を高めるよう努めている。  所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38  設置年月：昭和26年4月  規模等：土地 48,980㎡（附属小学校及び附属中学校と共有）、建物 932㎡</p> <p>名称：共同教育学部附属小学校  目的：先導的・先進的な研究校としての役割と教員養成の使命の上に、子供たちに最良の教育を行うことを目的として、日々の教育研究及び実践を行っている。  所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38  設置年月：昭和24年5月  規模等：土地 48,980㎡（附属幼稚園及び附属中学校と共有）、建物 5,904㎡</p> <p>名称：共同教育学部附属中学校  目的：生徒たちが自己の能力と個性を十分に伸ばし、充実した学校生活を送れるよう、教育方法を工夫し実践している。  所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38  設置年月：昭和26年4月  規模等：土地 48,980㎡（附属幼稚園及び附属小学校と共有）、建物 5,550㎡</p> <p>名称：共同教育学部附属特別支援学校  目的：特別支援教育の実践研究を進めるとともに、宇都宮大学共同教育学部及び大学院教育学研究科の研究・研修に協力する。  所在地：栃木県宇都宮市宝木町1-2592  設置年月：昭和50年4月  規模等：土地 17,883㎡、建物 3,944㎡</p> <p>(学部附属施設)</p> <p>名称：地域デザイン科学部附属地域デザインセンター  目的：地域と連携した教育及び研究を支援し、地域の課題解決に貢献する。  所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2  設置年月：平成28年4月  規模等：建物 陽東11号館1,909㎡の一部（47㎡）</p> <p>名称：国際学部附属多文化公共圏センター  目的：栃木県内外の自治体・国際交流協会・教育委員会・市民団体（NGO/NPOを含む協賛団体）や海外の交流協定締結大学とネットワークを形成し、情報を交換し合い、グローバル化に関する諸問題の実践的解決を目指す。  所在地：栃木県宇都宮市峰町350  設置年月：平成23年4月  規模等：建物 峰町5号館B棟1,903㎡の一部（101㎡）</p> <p>名称：工学部附属ものづくり創成工学センター  目的：未来を担う技術者の創造性と独創性を育み、ものづくり感性を涵養することを目的とした授業の実践を中心とし、インターンシップ及び学生によるプロジェクト活動の推進、現役技術者による講義、高度技術者による技能実演など多面的な教育プログラムの研究開発を行う。  所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2  設置年月：平成14年4月  規模等：建物 208㎡</p> <p>名称：農学部附属農場  目的：農業に関する実習教育を行うとともに、学術研究の発展に資する。  所在地：栃木県真岡市下籠谷443  設置年月：昭和24年5月  規模等：土地 1,016,165㎡、建物5,033㎡</p> <p>名称：農学部附属演習林  目的：船生演習林と日光演習林があり、森林科学の基礎的・応用的な研究を行うとともに、実験実習を通じて森林科学の総合的体系の理解を深める。  所在地：（船生演習林）栃木県塩谷郡塩谷町船生7556  （日光演習林）日光：栃木県日光市中宮祠3168  太郎山：栃木県日光市大字日光戦場ヶ原2492-2  設置年月：昭和24年5月  規模等：（船生演習林）土地 5,313,094㎡、建物 1,617㎡  （日光演習林）日光：土地 78,251㎡、建物 129㎡  太郎山：土地 2,005,735㎡</p> <p>(教育研究施設)</p> <p>名称：雑草管理教育研究センター  目的：雑草管理に関する包括的な教育研究を分野横断的な連携及び学内外の雑草管理関係組織・機関との連携によって推進し、もって農業生産の振興及び地域の持続的な発展に資することを目的とする。  所在地：栃木県宇都宮市峰町350  設置年月：平成3年4月  規模等：建物 2,091㎡</p>	
----------------	--	--

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：バイオサイエンス教育研究センター          目的：バイオサイエンス分野の教育研究を行うとともに、研究の応用と実用化を目指して新たな領域を開拓し、地域においてバイオサイエンス及びテクノロジーの啓発活動を行い、また、関連分野の教員の共同利用に供することを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：平成20年3月          規模等：建物 3,205㎡</p>	
	<p>名称：オブティクス教育研究センター          目的：光技術産業の強化及び発展に貢献するため、産業界と連携して、体系的教育の徹底と人材の育成を行い、かつ先端的な研究領域を創成することで、世界水準の教育研究拠点の形成を目指す。          所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2          設置年月：平成19年4月          規模等：建物 1,944㎡</p>	
	<p>名称：ロボティクス・工農技術研究所          目的：ロボット、センサ、ICT、IoT、農業機械、栽培技術、解析・評価等の先端技術を「包括的ロボット・工農技術」として統括し、課題に則したロボット技術開発とその戦略的活用方法の開発、これらの相乗効果による地域課題を解決する研究を行い、地域潜在力を活用した創発的イノベーション推進拠点である「場」の構築を目指すことを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2          設置年月：平成30年7月          規模等：建物 1,387㎡</p>	
	<p>名称：機器分析センター          目的：保有する教育研究設備の維持・管理、分析に関する技術指導・相談や機器操作に関する講習等を行い、教育研究を支援することを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2          設置年月：令和3年4月          規模等：建物 845㎡</p>	
	<p>名称：基盤教育センター          目的：現代社会に必要なリテラシー、幅広い教養と豊かな人間性、専門教育を学ぶ上で基礎となる素養を身に付けるための基盤教育について、全学的実施の企画・運営を中心に担い、その充実に資する。          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：平成23年4月          規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部（521㎡）          峰町4号館B棟2,651㎡の一部（517㎡）</p>	
	<p>名称：就職・キャリア支援センター          目的：学生の就職活動及びキャリア形成を支援することを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：令和3年4月          規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部（368㎡）</p>	
	<p>名称：社会共創促進センター          目的：地域のシンクタンク機能及び知の拠点としての役割を果たすとともに、地域との共創による研究を通じ本学の研究活動をより活性化し、地域への貢献と社会の発展に寄与することを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：令和3年4月          規模等：建物 924㎡</p>	
	<p>名称：宇大アカデミー          目的：社会人の学びを推進する。          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：平成30年4月          規模等：建物 峰町5号館C棟 3,249㎡の一部（446㎡）</p>	
	<p>名称：イノベーション支援センター          目的：産学官金連携を基盤に地域イノベーションの創出を支援・推進するとともに、研究成果の社会実装を促進することを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2          設置年月：令和3年4月          規模等：建物 5,028㎡</p>	
	<p>(学内共同施設)          名称：アドミッションセンター          目的：入学者選抜方法の改善及び入学者選抜の円滑な実施並びに入試広報の企画・実施に関し、連絡調整を行うことを目的とする。          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：平成31年4月          規模等：建物 峰町学務棟 1,513㎡の一部（116㎡）</p>	
<p>名称：留学生・国際交流センター          目的：外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導・助言等を行うとともに、その充実及び国際交流の推進に寄与することを目的とする。          峰地区          所在地：栃木県宇都宮市峰町350          設置年月：平成14年4月          規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部（111㎡）、          峰町4号館B棟2,651㎡の一部（490㎡）</p>		

<p style="text-align: center;">附属施設の概要</p>	<p>陽東地区 所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2 設置年月：平成14年4月 規模等：建物 陽東2号館3,056㎡の一部（59㎡）</p> <p>名称：教職センター 目的：教職課程の改善、充実及び教員養成機能の強化並びに充実を図るとともに、学内外の教育関連機関等と連携・協働し、教員養成及び現職教員研修の質の向上を図ることを目的とする。 所在地：栃木県宇都宮市峰町350 設置年月：平成26年4月 規模等：建物 峰町7号館740㎡の一部（85㎡）</p> <p>名称：情報通信基盤センター 目的：情報通信基盤及び情報システムに関する企画立案、設計及び運用を行うことにより、本学の教育研究、情報サービス及び大学経営業務を支援するとともに、IT関連分野における教育研究及び研究開発を推進し、地域に貢献することを目的とする。</p> <p>峰地区 所在地：栃木県宇都宮市峰町350 設置年月：昭和63年1月 規模等：建物 453㎡</p> <p>陽東地区 所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2 設置年月：昭和63年1月 規模等：建物 404㎡</p> <p>名称：保健管理センター 目的：保健管理に関する専門的業務を行い、学生及び職員の健康の保持増進をはかることを目的とする。</p> <p>峰地区 所在地：栃木県宇都宮市峰町350 設置年月：昭和51年5月 規模等：建物 385㎡</p> <p>陽東地区 所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2 設置年月：昭和51年5月 規模等：建物 学生プラザ1,432㎡の一部（200㎡）</p> <p>名称：附属図書館 目的：学生・教職員が教育・研究目標を達成するために必要とする多様な利用サービス・情報資源を提供する。また、一般市民に対しても利用サービスを拡充し、地域社会に貢献する。 所在地：（本館）栃木県宇都宮市峰町350 （分館）栃木県宇都宮市陽東7-1-2 設置年月：（本館）昭和30年4月 （分館）昭和39年4月 規模等：建物（本館）7,206㎡ （分館）学生プラザ1,432㎡の一部（1,138㎡）</p>	
--	--	--

(注)

- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																		
(地域創生科学研究科総合情報学専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員		
地域創生リテラシー	地域創生デザイン&イノベーション	1前	/	1			○							4	共同、メディア			
	アカデミックコミュニケーションⅠ	1後		1					○		1	1		2		23	共同、メディア	
	アカデミックコミュニケーションⅡ	2前		1					○		1	1		2		23	共同、メディア	
	実践経営マネジメント概論	1前			1			○			1						1	標準外
	観光地理学研究	1後			1				○								1	
	社会的企業論	1前			1			○									1	
	防災と国際協力Ⅰ	1後			1			○									1	隔年
	環境問題とガバナンスⅠ	1後			1				○								1	隔年
	人間の安全保障と国連Ⅰ	1前			1			○									1	隔年
	国際人権保障と平和構築Ⅰ	1後			1			○									1	隔年
	東アジアの国際政治と歴史Ⅰ	1前			1			1									1	隔年
	ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ	1後			1			1		○							1	隔年
	東アフリカの社会開発と文化Ⅰ	1前			1			1		○							1	隔年
	Political Change and Development in Southeast AsiaⅠ	1前			1			1		○							1	隔年
	都市と移民・エスニシティⅠ	1後			1			1		○							1	隔年
	感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	1後			1			1		○							1	
	アメリカ文化研究Ⅰ	1前			1			1		○							1	メディア
	フランス思想・文化研究Ⅰ	1後			1			1			○						1	※講義
	シティズンシップ教育Ⅰ	1前			1			1		○							1	
	日本文化研究Ⅰ	1後			1			1		○							1	メディア
	英語学研究Ⅰ	1後			1			1		○							1	
	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	1後			1			1		○							1	
	西洋近現代哲学研究Ⅰ	1前			1			1		○							1	
	日本語史と日本語研究Ⅰ	1後			1			1		○							1	
	日本語音声学Ⅰ	1後			1			1		○							1	
	技術日本語	1前			1			1		○							1	
	理系科目群	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門		1後		1			○								7	オムニバス、メディア
		社会現象の数理		1後		1			○								1	
		食品機能科学		1後		1			○								2	オムニバス
		メカニカル・エンジニアリング		1後		1			○								5	オムニバス
情報電気電子システム工学概論		1前		1			○			2	1				1	オムニバス、メディア		
博物学史	1前		1			○								1	メディア			
文系のためのデータサイエンス	1前		1			○				1					1	メディア		
実践力	実践インターンシップ	1・2前後		2					○						2	共同		
	実践フィールドワーク	1・2後		2					○						2	共同		
	創成工学プロジェクト演習	1前		2				○							1			
	アントレプレナーシップ・プロジェクト演習	1前		2				○							1			
	International Political Economy	1前		2			○								1			
	Sustainable Global Management	1前		2			○								1			
	国際インターンシップ	1・2前後		2					○						1			
	共生社会フィールドワーク	1・2前後		2					○						1			
	臨地研究	1後		2					○						1			
小計(42科目)	—	—	3	48	0	—	—	—	3	3	0	2	0	65				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
境界・学際領域科目	専攻指定科目																	
	社会実装特別講義	1前	/	2					○			1	2				共同	
	プロジェクトトレーニング	1後	/	2					○			2	4				共同	
	小計 (2科目)	—	—	4	0	0			—			3	4	0	0	0	0	
情報工学プログラム	プログラム専門科目		/															
	計算機アーキテクチャ論	1前	/	4	2				○			1						※演習
	進化計算論	1前	/		2				○			1						オムニバス
	人間情報処理	1前	/		2				○			1	1					
	画像形成変換処理	1前	/		2				○			1						
	光画像工学	1後	/		2				○				1					
	3Dグラフィックス	1後	/		1				○				1					
	情報統計学	1後	/		1				○				1					
	情報セキュリティ	1後	/		1				○			1						
	情報通信システム	1前	/		2				○				1				1	共同
	応用数学	1後	/		1				○			1						
	数理科学	1前	/		2				○			1						
	情報工学特別演習	1～2通	/	4						○		15	10			6		
情報工学特別研究	1～2通	/	6							○	15	10			6			
	小計 (13科目)	—	—	10	18	0			—			15	10	0	6	0	1	
データサイエンスプログラム	プログラム専門科目		/															
	機械学習論	1前	/		1				○				1					
	人工知能論	1後	/		2				○			1						
	確率統計論	1前	/		2				○						1			
	統計解析論	1前	/		2				○			1						
	数理モデリング	1前	/		2				○						1			
	応用数値解析	1後	/		2				○				1					
	応用実践データサイエンス	1後	/		2				○				1					
	人間情報解析	1後	/		1				○			1						
	音響情報解析	1前	/		1				○			1						
	知識情報論	1後	/		1				○			1						
	データサイエンス特別演習	1～2通	/	4						○		15	10			6		
データサイエンス特別研究	1～2通	/	6							○	15	10			6			
	小計 (12科目)	—	—	10	16	0			—			15	10	0	6	0	0	
経営情報学プログラム	プログラム専門科目		/															
	経営とデータサイエンス	1前	/		2				○			3	3					オムニバス、一部共同
	人材育成とキャリア開発	1前	/		1				○			1	1					
	デジタルマーケティング	1前	/		1				○			1						
	マネジメントアカウンティング・ファイナンス論	1後	/		1				○			1						
	競争戦略論	1後	/		1				○			1						
	金融仲介と制度	1後	/		1				○			1						
	組織システム論	1前	/		1				○				1					
	計量経済分析	1後	/		1				○				1					
	地域起業論	1後	/		1				○								1	
	経営情報学特別演習	1～2通	/	4						○		15	10			6		2
経営情報学特別研究	1～2通	/	6							○	15	10			6		2	
	小計 (11科目)	—	—	10	10	0			—			15	10	0	6	0	3	
合計 (80科目)				—	—	37	92	0				15	10	0	6	0	67	

学位又は称号	修士（工学），修士（経営情報学）	学位又は学科の分野	工学関係，経済学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は，地域創生リテラシー科目から6単位以上，境界・学際領域科目及びプログラム専門科目（「特別演習」「特別研究」を含む）から24単位以上の計30単位以上を修得し，かつ，修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。なお，地域創生リテラシー科目は，地域創生デザイン&イノベーション（1単位），アカデミックコミュニケーションⅠ（1単位）及びアカデミックコミュニケーションⅡ（1単位）を必ず修得すること。また，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。境界・学際領域科目はプロジェクトトレーニング（2単位），社会実装特別講義（2単位）を必ず修得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分
<b>情報工学プログラム</b> ・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。 ・境界・学際領域科目として，データサイエンスプログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の情報工学特別演習（4単位）及び情報工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の選択科目から6単位以上を必ず修得すること。 ・所定の単位を修得した者には「修士（工学）」の学位を与える。			
<b>データサイエンスプログラム</b> ・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。 ・境界・学際領域科目として，情報工学プログラム又は経営情報学の「プログラム専門科目」から4単位以上を必ず修得すること。なお，情報工学プログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上修得した者には「修士（工学）」の学位を，経営情報学プログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上修得した者には「修士（経営情報学）」の学位を与える。 ・「プログラム専門科目」のデータサイエンス特別演習（4単位）及びデータサイエンス特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の選択科目から6単位以上を必ず修得すること。			
<b>経営情報学プログラム</b> ・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。 ・境界・学際領域科目として，データサイエンスプログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の経営情報学特別演習（4単位）及び経営情報学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の選択科目から6単位以上を必ず修得すること。 ・所定の単位を修得した者には「修士（経営情報学）」の学位を与える。			

(注)

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校等の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
(地域創生科学研究科総合情報学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
学際的思考力 地域創生リテラシー	地域創生デザイン&イノベーション	1前	/	1			○							4	共同、メディア		
	アカデミックコミュニケーションⅠ	1後		1				○		1	1			2	共同、メディア		
	アカデミックコミュニケーションⅡ	2前		1				○		1	1			2	共同、メディア		
	社会的企業論	1前	/		1		○								1	隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 メディア ※講義 メディア	
	防災と国際協力Ⅰ	1後		1		○									1		
	環境問題とガバナンスⅠ	1後		1		○									1		
	人間の安全保障と国連Ⅰ	1前		1		○									1		
	国際人権保障と平和構築Ⅰ	1後		1		○									1		
	東アジアの国際政治と歴史Ⅰ	1前		1		○			○						1		
	ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ	1後		1		○			○						1		
	東アフリカの社会開発と文化Ⅰ	1前		1		○			○						1		
	Political Change and Development in Southeast AsiaⅠ	1前		1		○									1		
	都市と移民・エスニシティⅠ	1後		1		○									1		
	感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	1後		1		○									1		
	アメリカ文化研究Ⅰ	1前		1		○									1		
	フランス思想・文化研究Ⅰ	1後		1		○			○						1		
	シティズンシップ教育Ⅰ	1前		1		○									1		
	日本文化研究Ⅰ	1後		1		○									1		
	英語学研究Ⅰ	1後		1		○									1		
	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	1後		1		○									1		
西洋近現代哲学研究Ⅰ	1前	1			○									1			
日本語史と日本語研究Ⅰ	1後	1			○									1			
日本語音声学Ⅰ	1後	1			○									1			
実践力	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門	1後	/		1		○								7	オムニバス、メディア オムニバス メディア メディア	
	食品機能科学	1後		1		○									2		
	博物学史	1前		1		○									1		
	文系のためのデータサイエンス	1前		1		○					1				1		
	International Political Economy	1前		2		○									1		
Sustainable Global Management	1前	2		○									1				
国際インターンシップ	1・2前後	2						○					1				
共生社会フィールドワーク	1・2前後	2						○					1				
臨地研究	1後	2						○					1				
小計 (32科目)				—	—	3	34	0	—	—	—	3	3	0	2	0	53
境界・学際領域科目	専攻指定科目	社会実装特別講義	1前	/	2							1	2				共同
		プロジェクトトレーニング	1後		2							2	4			共同	
	小計 (2科目)				—	—	4	0	0	—	—	3	4	0	0	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
データサイエンスプログラム	機械学習論	1前	/		1		○				1	1						
	人工知能論	1後			2		○				1							
	確率統計論	1前			2		○							1				
	統計解析論	1前			2		○				1							
	数理モデリング	1前			2		○							1				
	応用数値解析	1後			2		○					1						
	応用実践データサイエンス	1後			2		○					1						
	人間情報解析	1後			1		○				1							
	音響情報解析	1前			1		○				1							
	知識情報論	1後			1		○				1							
	データサイエンス特別演習	1～2通			4				○		15	10			6			
	データサイエンス特別研究	1～2通			6					○	15	10			6			
小計 (12科目)	—	—	—	10	16	0	—	—	15	10	0	6	0	0				
経営情報学プログラム	経営とデータサイエンス	1前	/		2		○			3	3							
	人材育成とキャリア開発	1前			1		○				1							
	デジタルマーケティング	1前			1		○				1							
	マネジメントアカウンティング・ファイナンス論	1後			1		○				1							
	競争戦略論	1後			1		○				1							
	金融仲介と制度	1後			1		○				1							
	組織システム論	1前			1		○					1						
	計量経済分析	1後			1		○					1						
	地域起業論	1後			1		○											1
	経営情報学特別演習	1～2通			4				○		15	10			6			2
	経営情報学特別研究	1～2通			6				○		15	10			6			2
小計 (11科目)	—	—	—	10	10	0	—	—	15	10	0	6	0	0			3	
合計 (57科目)		—	—	27	60	0	—	—	15	10	0	6	0	0			55	

オムニバス、一部共同

学位又は称号	修士（工学），修士（経営情報学）	学位又は学科の分野	工学関係，経済学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は，地域創生リテラシー科目から6単位以上，境界・学際領域科目及びプログラム専門科目（「特別演習」「特別研究」を含む）から24単位以上の計30単位以上を修得し，かつ，修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。なお，地域創生リテラシー科目は，地域創生デザイン&イノベーション（1単位），アカデミックコミュニケーションⅠ（1単位）及びアカデミックコミュニケーションⅡ（1単位）を必ず修得すること。また，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。境界・学際領域科目はプロジェクトトレーニング（2単位），社会実装特別講義（2単位）を必ず修得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分
データサイエンスプログラム ・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。 ・境界・学際領域科目として，情報工学プログラム又は経営情報学の「プログラム専門科目」から4単位以上を必ず修得すること。なお，情報工学プログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上修得した者には「修士（工学）」の学位を，経営情報学プログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上修得した者には「修士（経営情報学）」の学位を与える。 ・「プログラム専門科目」のデータサイエンス特別演習（4単位）及びデータサイエンス特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の選択科目から6単位以上を必ず修得すること。			
経営情報学プログラム ・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。 ・境界・学際領域科目として，データサイエンスプログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の経営情報学特別演習（4単位）及び経営情報学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の選択科目から6単位以上を必ず修得すること。 ・所定の単位を修得した者には「修士（経営情報学）」の学位を与える。			

(注)

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校等の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
(地域創生科学研究科総合情報学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員	
地域創生リテラシー	学際的思考力	地域創生デザイン&イノベーション	1前	/	1			○							4	共同、メディア	
		アカデミックコミュニケーションⅠ	1後	/	1				○		1	1				23	共同、メディア
		アカデミックコミュニケーションⅡ	2前	/	1				○		1	1				23	共同、メディア
	文系科目群	実践経営マネジメント概論	1前	/		1			○		1						標準外
		観光地理学研究	1後	/		1				○						1	
		技術日本語	1前	/		1			○							1	
		社会現象の数理	1後	/		1			○							1	
	理系科目群	メカニカル・エンジニアリング	1後	/		1			○							5	オムニバス
		情報電気電子システム工学概論	1前	/		1			○		2	1				1	オムニバス、メディア
		実践インターンシップ	1・2前後	/		2				○						2	共同
	実践力	実践フィールドワーク	1・2後	/		2				○						2	共同
		創成工学プロジェクト演習	1前	/		2				○						1	
		アントレプレナーシップ・プロジェクト演習	1前	/		2				○						1	
小計(13科目)		—	—	3	14	0			—	3	3	0	2	0	42		
情報工学プログラム	プログラム専門科目	計算機アーキテクチャ論	1前	/		2		○			1					※演習 オムニバス  共同	
		進化計算論	1前	/		2		○			1						
		人間情報処理	1前	/		2		○			1	1					
		画像形成変換処理	1前	/		2		○			1						
		光画像工学	1後	/		2		○				1					
		3Dグラフィックス	1後	/		1		○				1					
		情報統計学	1後	/		1		○				1					
		情報セキュリティ	1後	/		1		○			1						
		情報通信システム	1前	/		2		○				1					1
		応用数学	1後	/		1		○			1						
		数理学	1前	/		2		○			1						
		情報工学特別演習	1~2通	/	4				○		15	10		6			
		情報工学特別研究	1~2通	/	6					○	15	10		6			
小計(13科目)	—	—	10	18	0			—	15	10	0	6	0	1			
合計(26科目)		—	—	13	32	0			—	15	10	0	6	0	43		

学位又は称号	修士（工学）, 修士（経営情報学）	学位又は学科の分野	工学関係, 経済学関係	
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
修了要件は、地域創生リテラシー科目から6単位以上、境界・学際領域科目及びプログラム専門科目（「特別演習」「特別研究」を含む）から24単位以上の計30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。なお、地域創生リテラシー科目は、地域創生デザイン&イノベーション（1単位）、アカデミックコミュニケーションⅠ（1単位）及びアカデミックコミュニケーションⅡ（1単位）を必ず修得すること。また、「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。境界・学際領域科目はプロジェクトトレーニング（2単位）、社会実装特別講義（2単位）を必ず修得すること。			1学年の学期区分	2期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業の標準時間	90分
情報工学プログラム ・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。 ・境界・学際領域科目として、データサイエンスプログラムの「プログラム専門科目」から4単位以上を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の情報工学特別演習（4単位）及び情報工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・「プログラム専門科目」の選択科目から6単位以上を必ず修得すること。 ・所定の単位を修得した者には「修士（工学）」の学位を与える。				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
（【既存専攻】地域創生科学研究科社会デザイン科学専攻）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
地域創生リテラシー	地域創生デザイン&イノベーション	1前	/	1			○							4	共同、メディア		
	アカデミックコミュニケーションⅠ	1後		1				○		1	1		2		23	共同、メディア	
	アカデミックコミュニケーションⅡ	2前		1				○		1	1		2		23	共同、メディア	
	実践経営マネジメント概論	1前			1			○		1							標準外
	観光地理学研究	1後			1				○							1	
	社会的企業論	1前			1			○								1	
	防災と国際協力Ⅰ	1後			1			○								1	隔年
	環境問題とガバナンスⅠ	1後			1				○							1	隔年
	人間の安全保障と国連Ⅰ	1前			1			○								1	隔年
	国際人権保障と平和構築Ⅰ	1後			1			○								1	隔年
	東アジアの国際政治と歴史Ⅰ	1前			1			1								1	隔年
	ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ	1後			1			1		○						1	隔年
	東アフリカの社会開発と文化Ⅰ	1前			1			1		○						1	隔年
	Political Change and Development in Southeast AsiaⅠ	1前			1			1		○						1	隔年
	都市と移民・エスニシティⅠ	1後			1			1		○						1	隔年
	感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	1後			1			1		○						1	
	アメリカ文化研究Ⅰ	1前			1			1		○						1	メディア
	フランス思想・文化研究Ⅰ	1後			1			1			○					1	※講義
	多文化教育研究Ⅰ	1後			1			1		○						1	
	シティズンシップ教育Ⅰ	1前			1			1		○						1	
	日本文化研究Ⅰ	1後			1			1		○						1	メディア
	英語学研究Ⅰ	1後			1			1		○						1	
	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	1後			1			1		○						1	
	西洋近現代哲学研究Ⅰ	1前			1			1		○						1	
	日本語史と日本語研究Ⅰ	1後			1			1		○						1	
	日本語音声学Ⅰ	1後			1			1		○						1	
	技術日本語	1前			1			1		○						1	
	理系科目群	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門		1後		1				○						2	オムニバス、メディア
		社会現象の数理		1後		1				○						1	
		食品機能科学		1後		1				○						2	オムニバス
メカニカル・エンジニアリング		1後		1				○						5	オムニバス		
情報電気電子システム工学概論		1前		1				○		2	1			1	オムニバス、メディア		
博物学史	1前		1				○							1			
文系のためのデータサイエンス	1前		1				○			1					メディア		
実践力	実践インターンシップ	1・2前後		2						○				2	共同		
	実践フィールドワーク	1・2後		2						○				2	共同		
	創成工学プロジェクト演習	1前		2				○						1			
	アントレプレナーシップ・プロジェクト演習	1前		2				○						1			
	International Political Economy	1前		2				○						1			
	Sustainable Global Management	1前		2				○						1			
	国際インターンシップ	1・2前後		2							○			1			
	共生社会フィールドワーク	1・2前後		2							○			1			
臨地研究	1後		2							○			1				
小計（43科目）	-	-	-	3	50	0	-	-	-	3	2	0	2	0	73		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
境界・学際領域科目	専攻指定科目	地域社会デザイン学分析展開論：実践を問い、現場に還す	1・2前			1										4	
		共生社会論	1前			1										4	
		グローバル・エアスタディーズ総合講義	1前			1										4	
		地域人間発達支援の実際と課題	1前			1										7	
	プログラム指定科目	ダイバーシティ地域共創概論	1・2			1										12	
	ダイバーシティ地域共創最前線	1・2			1										8		
	小計(6科目)	—	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	0	39		
コミュニティデザイン学プログラム	基盤科目	政策形成と協働	1後			1										1	
		コミュニティ政策論	1後			1										1	
		自然共生デザイン論	1前			1										1	
		福祉経営論	1前			1										1	
	プログラム専門科目	政策分析とガバナンス	1前			1										1	
		会話分析の方法と実践	2後			1										1	
		地域スポーツ行政論	2後			1										1	
		地域社会教育論	1後			1										1	
		地域住民の意識・行動の調査法	1後			1										1	
		都市と地域の社会学	1前			1										1	
		地域活動の心理学	2前			1										1	
		合奏による参加型デザイン	1後			1										1	
		地域食生活論	2前			1										1	
		農業・農村の組織マネジメント	1後			1										1	
観光地理学研究	1後			1										1			
	コミュニティデザイン学特別演習	1～2通		4											2		
	コミュニティデザイン学特別研究	1～2通		6											2		
	小計(17科目)	—	—	10	15	0	—	—	0	0	0	0	0	0	17		
農業・農村経済学プログラム	プログラム専門科目	農業・農村経済学	1・2前			1						1				1	
		農政学	1・2前			1										1	
		農業生産組織論	1・2前			1										1	
		農法論	1・2前			1										1	
		農村地理学	1・2前			1										1	
		マーケティング論	1・2前			1										1	
		ソーシャルビジネス論	1・2前			1										1	
		統計分析論	1後			1							1				
		環境経済学	1・2前			1							1				
		フードシステム学	1後			1										1	
		国際農業経済・経営学	1・2前			1										1	
農村金融論	1後			1										1			
	農業・農村経済学特別演習	1～2通		4							1				9		
	農業・農村経済学特別研究	1～2通		6							1				9		
	小計(14科目)	—	—	10	12	0	—	—	0	1	0	0	0	0	8		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
建築学プログラム	基盤応用科目 プログラム専門科目	建築構造学特論A	1後		1											1	
		建築構造学特論B	1後		1											1	
		建築耐震設計特論A	1・2前		1											1	
		建築耐震設計特論B	1・2前		1											1	
		建築構造材料特論A	1・2後		1											1	
		建築構造材料特論B	1・2後		1											1	
		木造建築特論A	1・2後		1											1	
		木造建築特論B	1・2後		1											1	
		既存建築物分析学特論A	1・2前		1											1	
		既存建築物分析学特論B	1・2前		1											1	
		エコロジカル建築特論A	1・2前		1											1	
		エコロジカル建築特論B	1・2前		1											1	
		環境設備特論A	1・2前		1											1	
		環境設備特論B	1・2後		1											1	
	建築設計特論A	1・2後		1											1		
	建築設計特論B	1・2後		1											1		
	建築計画特論A	1・2前		1											1		
	建築計画特論B	1・2前		1											1		
	都市解析特論A	1・2前		1											1		
	都市解析特論B	1・2前		1											1		
	建築インターンシップI	1・2前後		1											4		
	建築インターンシップII	1・2前後		2											4		
	実践専門科目	建築インターンシップIII	1・2前後		3											4	
		建築インターンシップIV	1・2前後		2											4	
		建築インターンシップV	1・2前後		2											4	
		建築インターンシップVI	1・2前後		2											4	
		地域デザイン工学プロジェクト	1・2前		1											6	
		地域デザイン工学インターンシップ	1・2前後		1											4	
		建築設計演習I	1・2前後		2											5	
		建築設計演習II	1・2前後		2											5	
		建築学特別演習I	1通		2											2	
		建築学特別演習II	2通		2											2	
	建築学特別研究	1～2通		4											2		
	建築学特別設計	1～2通		6											2		
小計(34科目)	—	—	—	14	38	0	—	—	—	0	0	0	0	0	12		
土木工学プログラム	プログラム専門科目	橋梁工学特論	1後		1											1	
		耐震工学特論	1後		1											1	
		岩盤力学特論	1前		1											1	
		地盤力学特論	1前		1											1	
		土木材料科学特論	1後		1											1	
		エコマテリアル工学特論	1後		1											1	
		河川工学特論	1前		1											1	
		海岸工学特論	1後		1											1	
		地圏環境工学特論	1後		1											2	
		都市計画特論	1前		1											1	
		都市交通特論	2前		1											1	
		防災マネジメント特論	1前		1											1	
		交通工学特論	1後		1											1	
		土木工学特別演習	1～2通		4											10	
		土木工学特別研究	1～2通		6											10	
小計(15科目)	—	—	—	10	13	0	—	—	—	0	0	0	0	0	12		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
農業土木学プログラム	プログラム専門科目	環境数理A	1前		1											2	隔年 隔年 隔年 隔年
		環境数理B	1・2前		1											2	
		土壌環境物理学A	1前		1											1	
		土壌環境物理学B	1・2前		1											1	
		農地保全学	1・2後		1											1	
		農業水利学	1後		1											1	
		応用田園生態工学A	1後		1											1	
		応用田園生態工学B	1・2後		1											1	
		地域マネジメントA	1前		1											1	
		地域マネジメントB	1・2前		1											1	
		農業土木学特別演習	1～2通		4											5	
		農業土木学特別研究	1～2通		6											5	
小計(12科目)	—	—	—	10	10	0	—	—	0	0	0	0	0	0	5		
グローバル・エリアスタディーズプログラム	基盤科目	防災と国際協力I	1後		1											1	
		環境問題とガバナンスI	1後		1											1	
		情報ネットワークと技術I	1後		1											1	
		人間の安全保障と国連I	1前		1											1	
		国際人権保障と平和構築I	1後		1											1	
		Globalization and Project Management I	1後		1											1	
		防災と国際協力II	1後		1											1	
		環境問題とガバナンスII	1後		1											1	
		情報ネットワークと技術II	1後		1											1	
		人間の安全保障と国連II	1前		1											1	
		国際人権保障と平和構築II	1後		1											1	
		東アジアの国際政治と歴史I	1前		1											1	
		東アジアの歴史と文化I	1前		1											1	
		日本の自然と地域生活I	1前		1											1	
		アメリカの経済と金融I	1後		1											1	
	ラテンアメリカの経済と社会I	1後		1											1		
	中東地域の政治と社会I	1後		1											1		
	東アフリカの社会開発と文化I	1前		1											1		
	Globalization and Project Management II	1後		1											1		
	Political Change and Development in Southeast Asia I	1前		1											1		
	都市と移民・エスニシティI	1後		1											1		
	応用科目	東アジアの国際政治と歴史II	1前		1											1	
		東アジアの歴史と文化II	1前		1											1	
		日本の自然と地域生活II	1前		1											1	
		アメリカの経済と金融II	1後		1											1	
		ラテンアメリカの経済と社会II	1後		1											1	
		中東地域の政治と社会II	1後		1											1	
東アフリカの社会開発と文化II		1前		1											1		
Political Change and Development in Southeast Asia II		1前		1											1		
都市と移民・エスニシティII		1後		1											1		
グローバル・エリアスタディーズ特別演習	1～2通		4											1			
グローバル・エリアスタディーズ特別研究	1～2通		6											1			
小計(32科目)	—	—	—	10	30	0	—	—	0	0	0	0	0	0	15		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
多文化共生学プログラム	基盤科目	現代英語研究Ⅰ	1前		1											1		
		感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	1後		1											1		
		文化人類学基礎講読Ⅰ	1前		1											1		
		日本の文化と文学研究Ⅰ	1前		1											1		
		ヨーロッパ表象文化研究Ⅰ	1後		1											1		
			多文化教育研究Ⅰ	1後		1										1		
	プログラム専門科目	応用科目	言語文化と言語発達Ⅰ	1前		1											1	
			言語文化と言語発達Ⅱ	1前		1											1	
			現代英語研究Ⅱ	1後		1											1	
			感情コミュニケーションと社会的共生Ⅱ	1後		1											1	
			日本表象文化研究Ⅰ	1前		1											1	
			日本表象文化研究Ⅱ	1前		1											1	
			多文化教育研究Ⅱ	1後		1											1	
			国際交流と日本語教育Ⅰ	1前		1											1	
			国際交流と日本語教育Ⅱ	1前		1											1	
			アメリカ文化研究Ⅰ	1後		1											1	
			アメリカ文化研究Ⅱ	1後		1											1	
			イギリス文化研究Ⅰ	2前		1											1	
			イギリス文化研究Ⅱ	2前		1											1	
			フランス思想・文化研究Ⅰ	1後		1											1	
			フランス思想・文化研究Ⅱ	1後		1											1	
			西洋史研究Ⅰ	1前		1											1	
			西洋史研究Ⅱ	1前		1											1	
			性と人権論Ⅰ	1前		1											1	
			性と人権論Ⅱ	1前		1											1	
			東アジア比較文学比較文化研究Ⅰ	1前		1											1	
			東アジア比較文学比較文化研究Ⅱ	1前		1											1	
			人権と法Ⅰ	1後		1											1	
			人権と法Ⅱ	1後		1											1	
			シティズンシップ教育Ⅰ	1後		1											1	
			シティズンシップ教育Ⅱ	1後		1											1	
			日本文学研究Ⅰ	1後		1											1	
			日本文学研究Ⅱ	1後		1											1	
			日本文化研究Ⅰ	1後		1											1	
			日本文化研究Ⅱ	1後		1											1	
			日本の文化と文学研究Ⅱ	1後		1											1	
			言語普遍性と英文法研究Ⅰ	2前		1											1	
			言語普遍性と英文法研究Ⅱ	2前		1											1	
			英語音声学Ⅰ	1後		1											1	
			英語音声学Ⅱ	1後		1											1	
			英語学研究Ⅰ	1後		1											1	
			英語学研究Ⅱ	1後		1											1	
外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ			1後		1											1		
外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅱ	1後		1											1				
芸術学研究Ⅰ	1後		1											1				
芸術学研究Ⅱ	1後		1											1				
音楽創作文化研究Ⅰ	1後		1											1				
音楽創作文化研究Ⅱ	1後		1											1				
西洋近現代哲学研究Ⅰ	1前		1											1				
西洋近現代哲学研究Ⅱ	1前		1											1				
日本史研究Ⅰ	1後		1											1				
日本史研究Ⅱ	1後		1											1				
ヨーロッパ表象文化研究Ⅱ	2後		1											1				
日本語史と日本語研究Ⅰ	1後		1											1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
多文化共生学プログラム	応用科目 プログラム専門科目	日本語史と日本語研究Ⅱ	1後		1										1	
		グローバル時代の学校教育Ⅰ	2前		1										1	
		グローバル時代の学校教育Ⅱ	2前		1										1	
		日本語史研究の諸問題Ⅰ	1前		1										1	
		日本語史研究の諸問題Ⅱ	1前		1										1	
		日本語音声学Ⅱ	1後		1										1	
	多文化共生学特別演習	1～2通		4											1	
多文化共生学特別研究	1～2通		6											1		
小計(62科目)	—	—	—	10	60	0	—	—	0	0	0	0	0	0	31	
地域人間発達支援学プログラム	基盤科目	人間発達支援方法論	1前		2										1	
		社会的思考支援論	1後		2										1	
		生涯発達支援論	1前		2										1	
		共に生きるかたちの心理学特論	1後		2										1	
		ヘルスプロモーション特論	1後		2										1	
		生活環境創造支援論	1前		2										4	
		地域アートマネジメント(美術)	1前		2										1	
		地域アートマネジメント(音楽)	1後		2										1	
		小計(9科目)	—	—	—	14	0	—	—	—	—	—	—	—	—	9
	応用科目 プログラム専門科目	認知心理的支援論	1後		2										1	
		遊びと感情の社会学特論	1・2前		2										1	
		地域環境システム論	1・2後		2										1	
		衣環境学特論	1・2前		2										2	
		食環境学特論	1・2後		2										1	
		生活経営支援論	1・2後		2										1	
		消費者教育支援論	1・2後		2										1	
		健康管理支援論	1・2後		2										1	
		身体科学特論	1・2前		1										1	
		運動発達特論	1・2前		2										1	
		身体運動学演習	1・2後		1										1	
		スポーツ指導支援論	1・2後		1										1	
		生涯身体発達支援論	1・2前		2										1	
		情報コミュニケーション演習	1・2前		2										1	
		情報科学技術特論	1・2後		2										1	
		科学コミュニケーション演習	1・2後		2										1	
		造形表現支援演習	1・2後		2										1	
		平面表現技法分析論	1・2後		2										1	
		地域デザインプロジェクト	1・2前		2										1	
		舞台芸術分析論	1・2後		2										1	
		音声デザイン支援論	1・2前		2										1	
		サウンド・コラボレーション	1・2前		2										1	
		外国語コミュニケーション演習	1・2後		2										1	
		外国語教授法特論	1・2前		2										1	
		論理表現コミュニケーション演習	1・2後		2										1	
		地域人間発達支援学特別演習	1～2通		4											19
地域人間発達支援学特別研究	1～2通		6											19		
小計(35科目)	—	—	—	10	63	0	—	—	15	10	0	4	0	31		
合計(80科目)	—	—	—	33	146	0	—	—	15	10	0	4	0	184		

学位又は称号	修士（学術），修士（農学）， 修士（工学），修士（国際学）	学位又は学科の分野	文学関係，教育学・保育学関係，法学関係， 経済学関係，社会学・社会福祉学関係， 理学関係，工学関係，農学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は，地域創生リテラシー科目から6単位以上，境界・学際領域科目及びプログラム専門科目（「特別演習」「特別研究」を含む）から24単位以上の計30単位以上を修得し，かつ，修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。なお，地域創生リテラシー科目は，地域創生デザイン&イノベーション（1単位），アカデミックコミュニケーションⅠ（1単位）及びアカデミックコミュニケーションⅡ（1単位）を必ず修得すること。また，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分
<p>コミュニティデザイン学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「専攻指定科目」の指定2科目1単位および「プログラム指定科目」2単位を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目のうち「基盤科目」2単位，「社会システムデザイン科目」2単位および「地域資源マネジメント科目」2単位のいずれか合計5単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他のプログラムの科目」および「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p>農業・農村経済学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「専攻指定科目」1単位（必修）および「プログラム指定科目」2単位を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目のうち「基盤科目」3単位および「応用科目」3単位の合計6単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・農業土壌学特別演習（4単位）および農業土壌学特別研究（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他のプログラムの科目」および「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p>建築学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「プログラム指定科目」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目のうち「基盤応用科目」から7単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・建築学特別演習Ⅰ（2単位）および建築学特別演習Ⅱ（2単位）を必ず修得すること。</li> <li>・建築学特別研究（6単位）または建築学特別設計（6単位）のいずれかを必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p>土木工学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「プログラム指定科目」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目から6単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・土木工学特別演習（4単位）および土木工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p>農業土壌学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「文系科目群」から1単位以上，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「プログラム指定科目」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目のうち6単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・農業土壌学特別演習（4単位）および農業土壌学特別研究（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p>グローバル・エリアスタディーズプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「専攻指定科目」から「グローバル・エリアスタディーズ総合談義（必修）」1単位および「プログラム指定科目」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目のうち「基盤科目」5単位以上および「応用科目」5単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・グローバル・エリアスタディーズ特別演習（4単位）およびグローバル・エリアスタディーズ特別研究（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul> <p>多文化共生学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・境界・学際領域科目のうち「専攻指定科目」から「共生社会論（必修）」1単位および「プログラム指定科目」から1単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・プログラム専門科目のうち「基盤科目」2単位以上および「応用科目」4単位以上を必ず修得すること。</li> <li>・多文化共生学特別演習（4単位）および多文化共生学特別研究（6単位）を必ず修得すること。</li> <li>・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「境界・学際領域科目のプログラム指定科目以外の本専攻の他のプログラム科目及び他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。</li> </ul>			

#### 地域人間発達支援学プログラム

- ・地域創生リテラシー科目の「理系科目群」から1単位以上、「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。
- ・境界・学際領域科目のうち「専攻指定科目」から「地域人間発達支援の実際と課題（必修）」1単位および「プログラム指定科目」から1単位以上を必ず修得すること。
- ・プログラム専門科目のうち「基盤科目」2単位以上および「応用科目」4単位以上を必ず修得すること。
- ・地域人間発達支援学特別演習（4単位）および地域人間発達支援学特別研究（6単位）を必ず修得すること。
- ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、「境界・学際領域科目のプログラム指定科目以外の本専攻の他のプログラム科目及び他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。

#### （注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとす場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																	
(【既存専攻】地域創生科学研究科工農総合科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員	
学 際 的 思 考 力  地 域 創 生 リ テ ラ ン シ ー	地域創生デザイン&イノベーション	1前	/	1			○							4	共同、メディア		
	アカデミックコミュニケーションⅠ	1後		1					○		1	1		2		23	共同、メディア
	アカデミックコミュニケーションⅡ	2前		1					○		1	1		2		23	共同、メディア
	実践経営マネジメント概論	1前	/		1			○			1					1	標準外
	観光地理学研究	1後			1				○							1	
	社会的企業論	1前			1				○							1	
	防災と国際協力Ⅰ	1後			1				○							1	隔年
	環境問題とガバナンスⅠ	1後			1					○						1	隔年
	人間の安全保障と国連Ⅰ	1前			1				○							1	隔年
	国際人権保障と平和構築Ⅰ	1後			1				○							1	隔年
	東アジアの国際政治と歴史Ⅰ	1前			1					○						1	隔年
	ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ	1後			1					○	○					1	隔年
	東アフリカの社会開発と文化Ⅰ	1前			1					○	○					1	隔年
	Political Change and Development in Southeast Asia I	1前			1					○						1	隔年
	都市と移民・エスニシティⅠ	1後			1					○						1	隔年
	感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ	1後			1					○						1	
	アメリカ文化研究Ⅰ	1前			1					○						1	メディア
	フランス思想・文化研究Ⅰ	1後			1						○					1	※講義
	多文化教育研究Ⅰ	1後			1					○						1	
	シティズンシップ教育Ⅰ	1前			1					○						1	
	日本文化研究Ⅰ	1後			1					○						1	メディア
	英語学研究Ⅰ	1後			1					○						1	
	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ	1後			1					○						1	
西洋近現代哲学研究Ⅰ	1前			1					○						1		
日本語史と日本語研究Ⅰ	1後			1					○						1		
日本語音声学Ⅰ	1後			1					○						1		
技術日本語	1前		1					○						1			
実 践 力	実践インターンシップ	1・2前後	/		2					○					2	共同	
	実践フィールドワーク	1・2後			2					○					2	共同	
	創成工学プロジェクト演習	1前			2					○					1		
	アントレプレナーシップ・プロジェクト演習	1前			2					○					1		
	International Political Economy	1前			2					○					1		
	Sustainable Global Management	1前			2					○					1		
	国際インターンシップ	1・2前後			2						○				1		
	共生社会フィールドワーク	1・2前後			2						○				1		
臨地研究	1後		2						○				1				
小計(36科目)	—	—	3	42	0		—			1	0	0	2	0	53		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
境界・学際領域科目 専攻指定科目	基礎光学Ⅰ	1前	/		1											1	
	光学基盤技術	1後			1												4
	遺伝子情報解析技術論	1前			1												1
	細胞解析技術論	1前			1												1
	質量分析装置解析技術論	1後			1												1
	バイオデザイン・プロセス学	1後			1												2
	環境分析化学	1後			1												2
	化学システム工学	1後			1												1
	生体超分子化学入門	1後			1												1
	物質プロセス工学	2前			1												1
	分子生理化学	2前			1												2
	界面化学	2前			1												1
	食品機能科学	1後			1												2
	材料組織評価学	1前			2												39
	生体機械工学	1前			1												1
	マイクロ・ナノ工学	1後			1												1
	メカトロニクス制御	1後			2												1
	生体信号解析学特論	1前			2												1
	基礎／発展 電磁気学	1前			2												1
	量子エレクトロニクス	1後			2												1
	エンジニアコーチング	1前			1												1
	情報電気電子システム工学特別講義	1・2後			1												1
	スマート農林業	1後			1												7
	政策課題演習	1後			1												6
小計 (24科目)	—	—	—	0	29	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	35	
光工学プログラム プログラム専門科目	基礎光学Ⅱ	1前	/		1											1	
	波動光学Ⅰ	1前			1												1
	波動光学Ⅱ	1前			1												1
	生命分子光工学	1・2前			2												1
	光画像処理	1・2後			2						1						
	光計測	1・2前			2												1
	光導波路デバイス	1・2後			2												17
	情報光学	1・2後			2												1
	光学設計	1・2後			2												1
	数理光物理学	1・2前			2												1
	感性情報処理	1・2前			2						1						
	先端フォトリソ	1・2前			2												1
	光学システム科学	1・2後			2												1
	可視化情報工学	1・2後			2												1
	画像工学	1・2後			2												1
	ディスプレイ工学	1・2後			2												1
	光工学特別演習	1～2通			4												16
	光工学特別研究	1～2通			6												16
小計 (18科目)	—	—	—	10	29	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	16	
分子農学プログラム プログラム専門科目	植物分子保護学	1・2後	/		2											2	
	植物分子遺伝育種学	1・2後			2												3
	分子植物生理学	1・2前			2												2
	分子進化生態学	1・2後			2												1
	動物分子生理学	1・2前			2												1
	動物生殖遺伝学	1・2後			2												2
	分子農学特別演習	1～2通			4												1
	分子農学特別研究	1～2通			6												1
小計 (8科目)	—	—	—	10	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	12	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
物質環境化学プログラム	物理化学要論	1前	/		2										3	
	分子構造化学	1前			2										14	
	分子機能化学	1後			2										20	
	物質・環境工学	1後			2										15	
	物質環境化学特別演習	1～2通			4										0	
	物質環境化学特別研究	1～2通			6										0	
	小計(6科目)	—		—	10	8	0	—	—	0	0	0	0	0	0	
農芸化学プログラム	フロンティア農芸化学	1前	/		2										3	
	生理活性物質化学	1前			2										2	
	栄養生理化学	2前			2										3	
	植物機能化学	1後			2										3	
	農芸化学特別演習	1～2通			4										13	
	農芸化学特別研究	1～2通			6										13	
小計(6科目)	—	—	10	8	0	—	—	0	0	0	0	0	0	13		
機械知能工学プログラム	実験流体力学	1後	/		2										1	
	生産技術工学	1前			1										1	
	先端精密加工学	1後			2										1	
	成形プロセス工学	1前			2										1	
	力学系理論	1前			1										1	
	動的システム解析	1後			1										1	
	ロボット技術	1後			1										1	
	知能ロボット	1後			2										1	
	幾何数理機械工学	1前			1										1	
	機械知能工学特別演習	1～2通			4										1	
機械知能工学特別研究	1～2通		6										1			
小計(11科目)	—	—	10	13	0	—	—	0	0	0	0	0	0	9		
情報電気電子システム工学プログラム	数理科学特論	1前	/		2						1					
	数理解析特論	1後			2						1					
	非線形解析特論	1前			2						1					
	応用数学特論	1後			2						1					
	ソフトウェア特論	1後			2										1	
	音声言語情報処理	1後			2										1	
	デジタル画像工学	1後			2						1					
	音響情報工学	1後			2						1					
	情報量統計学	1前			2							1				
	超伝導エレクトロニクス	1前			2										1	
	スピントロニクス	1後			2										1	
	光制御回路工学	1前			2										1	
	マイクロ波・ミリ波回路工学	1前			2										1	
	レーザー工学	1前			2										1	
	電気自動車	1前			2										1	
	アドバンスパワーエレクトロニクス	1前			2										1	
	ロバスト制御理論	1前			2										1	
	材料物性の量子論	1前			2										1	
	電子材料工学特論	1後			2										1	
	代数学と暗号理論	1後			2										1	
	最適制御理論	1後			2										1	
	光と物質の科学	1通			1										1	
	情報ネットワーク特論	1前			2										1	
計算機アーキテクチャ特論	1前		2						1							
スマートシティーテクノロジー	1後		1										1			
大規模システム最適化	1前		2						1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
情報電気電子システム工学プログラム	システムバイオロジー	1後	/		2										1		
	画像復元処理特論	1前			2					1							
	感性情報処理システム	1前			2					1							
	コンピュータグラフィックス特論	1後			2					1							
	ネットワークコンピューティング特論	1後			2											1	
	情報電気電子システム工学特別演習	1～2通			4					1							
	情報電気電子システム工学特別研究	1～2通			6					1							
	小計 (33科目)	—		—	—	10	60	0	—	—	9	1	0	0	0	0	29
農業生産環境保全学	園芸作物生理学	1前	/		1											1	
	園芸フィールド生理学	1前			1											1	
	作物品種改良学	1後			1											1	
	防除分子生態学	1後			1											1	
	生物とウイルスの関係学	1後			1											1	
	動物行動管理学	1後			1											1	
	動物形態学	1前			1											1	
	ヒトと動物の関係学	1後			1											1	
	植生管理学	1前			1											1	
	雑草管理・検疫学	1後			1											2	
	野生動物管理学	1前			1											1	
	生物生産環境情報工学	1前			1											1	
	生物環境調節学	1後			1											1	
	生物生産機械学	1後			1											1	
	生物環境システム工学	1後			1											1	
	食品流通工学	1前			1											1	
	生産流通システム工学	1後			1											1	
	植物生産環境学	1後			1											1	
	農林フィールド土壌化学	1前			1											1	
	農業生産環境保全学特別講義	1通			1											2	
農業生産環境保全学特別講義Ⅲ	1通		1											6			
農業生産環境保全学特別演習	1～2通		4											20			
農業生産環境保全学特別研究	1～2通		6											20			
小計 (23科目)	—	—	—	10	21	0	—	—	0	0	0	0	0	0	27		
森林生産保全学	森林生産学	1前	/		1											2	
	森林管理政策学	1前			1											2	
	森林工学	1前			1											2	
	森林環境制御学	1前			1											1	
	比較森林政策学	1前			1											1	
	森林管理計画学	1前			1											1	
	森林作業システム学	1前			1											1	
	森林植物学	1後			1											1	
	森林経済学	1後			1											1	
	森林資源管理学	1前			1											1	
	森林生産保全学特別講義Ⅰ	1通			1											7	
	森林生産保全学特別講義Ⅱ	1通			1											7	
	森林生産保全学特別講義Ⅲ	1通			1											7	
	森林生産保全学特別演習	1～2通			4											7	
	森林生産保全学特別研究	1～2通			6											7	
小計 (15科目)	—	—	—	10	13	0	—	—	15	10	0	4		7			
合計 (80科目)		—	—	83	235	0	—	—	15	10	0	4		172			

学位又は称号	修士（光工学），修士（工学），修士（分子農学），修士（農学）	学位又は学科の分野	工学関係，農学関係	
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等		
修了要件は，地域創生リテラシー科目から6単位以上，境界・学際領域科目及びプログラム専門科目（「特別演習」「特別研究」を含む）から24単位以上の計30単位以上を修得し，かつ，修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。 なお，地域創生リテラシー科目は，地域創生デザイン&イノベーション（1単位），アカデミックコミュニケーションⅠ（1単位）及びアカデミックコミュニケーションⅡ（1単位）を必ず修得すること。また，「文系科目群」から1単位以上，「実践力」から2単位以上を必ず修得すること。		1学年の学期区分	2期	
		1学期の授業期間	15週	
		1時限の授業の標準時間	90分	
<b>光工学プログラム</b> ・境界・学際領域科目のうち基礎光学（1単位），光学基盤技術（1単位），遺伝子情報解析技術論（1単位），細胞解析技術論（1単位），質量分析装置解析技術論（1単位）から1単位以上を必ず修得すること。 ・プログラム専門科目のうち「基盤科目」2単位以上および「応用科目」8単位以上を必ず修得すること。 ・光工学特別演習（4単位）および光工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。				
<b>分子農学プログラム</b> ・境界・学際領域科目のうち基礎光学（1単位），光学基盤技術（1単位），遺伝子情報解析技術論（1単位），細胞解析技術論（1単位），質量分析装置解析技術論（1単位）から1単位以上およびプログラム指定科目から2単位以上を必ず修得すること。 ・プログラム専門科目4単位以上を必ず修得すること。 ・分子農学特別演習（4単位）および分子農学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「境界・学際領域科目のプログラム指定科目以外の本専攻の他のプログラム科目及び他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。				
<b>物質環境化学プログラム</b> ・境界・学際領域科目のうちバイオデザイン・プロセス学（1単位），環境分析化学（1単位），化学システム工学（1単位），生体超分子化学入門（1単位），物質プロセス工学（1単位），分子生理化学（1単位），界面化学（1単位），食品機能科学（1単位）から2単位以上およびプログラム指定科目から1単位以上を必ず修得すること。 ・プログラム専門科目4単位以上を必ず修得すること。 ・物質環境化学特別演習（4単位）および物質環境化学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「本専攻の他のプログラム科目及び境界・学際領域科目のプログラム指定科目以外の他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。				
<b>農芸化学プログラム</b> ・境界・学際領域科目のうちバイオデザイン・プロセス学（1単位），環境分析化学（1単位），化学システム工学（1単位），生体超分子化学入門（1単位），物質プロセス工学（1単位），分子生理化学（1単位），界面化学（1単位），食品機能科学（1単位）から2単位以上およびプログラム指定科目から1単位以上を必ず修得すること。 ・プログラム専門科目4単位以上を必ず修得すること。 ・農芸化学特別演習（4単位）および農芸化学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「本専攻の他のプログラム科目及び他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。				
<b>機械知能工学プログラム</b> ・境界・学際領域科目のうち材料組織評価学（2単位），生体機械工学（1単位），マイクロ・ナノ工学（1単位），メカトロニクス制御（2単位），生体信号解析学特論（2単位）から2単位以上およびプログラム指定科目から1単位以上を必ず修得すること。 ・プログラム専門科目4単位以上を必ず修得すること。 ・機械知能工学特別演習（4単位）および機械知能工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。 ・指導教員との相談・指導の下で，教育上有益と認めるときは，「本専攻の他のプログラム科目及び他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。				

#### 情報電気電子システム工学プログラム

- ・境界・学際領域科目のうち基礎／発展 電磁気学（2単位）、量子エレクトロニクス（2単位）、エンジニアコーチング（1単位）、情報電気電子システム工学特別講義（1単位）から2単位以上およびプログラム指定科目（指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認められる科目に限る）から1単位以上を必ず修得すること。
- ・プログラム専門科目から6単位以上を必ず修得すること。
- ・情報電気電子システム工学特別演習（4単位）および情報電気電子システム工学特別研究（6単位）を必ず修得すること。
- ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、「他専攻のプログラム科目」及び「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から2単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。

#### 農業生産環境保全学プログラム

- ・境界・学際領域科目のうち政策課題演習（必修）（1単位）およびプログラム指定科目から2単位以上を必ず修得すること。
- ・プログラム専門科目から7単位以上を必ず修得すること。
- ・農業生産環境保全学特別演習（4単位）および農業生産環境保全学特別研究（6単位）を必ず修得すること。
- ・指導教員との相談・指導の下で、教育上有益と認めるときは、「他の大学の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目」から3単位まで修了の要件となる単位として認めることができる。

#### 森林生産保全学プログラム

- ・境界・学際領域科目のうちスマート農林業（必修）（1単位）、「政策課題演習（必修）」（1単位）およびプログラム指定科目から1単位以上を必ず修得すること。
- ・プログラム専門科目のうちから7単位以上を必ず修得すること。
- ・農業生産環境保全学特別演習（4単位）および農業生産環境保全学特別研究（6単位）を必ず修得すること。

#### (注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとす場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																			
【既設学部等】(データサイエンス経営学部データサイエンス経営学科)																			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員			
基 盤 教 育 科 目	初期導入科目	新入生セミナー	1前	○	2			○				9	6		1			オムニバス・共同 (一部) ※演習	
		小計(1科目)	—	—	2	0	0	—				9	6	0	1	0	0		
リ テ ラ シー 科 目		Integrated English I A	1前	○	2			○										4	
		Integrated English I B	1前	○	1			○											4
		Integrated English II A	1後	○	2			○											4
		Integrated English II B	1後	○	1			○											4
		Advanced English I (EAP Reading I)	2前後			1			○										4
		Advanced English I (EAP Reading II)	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Reading & Vocabulary)	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Writing I)	2前後			1			○										3
		Advanced English I (EAP Writing II)	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Public Speaking])	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Presentation])	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Discussion & Debate])	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [World Englishes])	2前後			1			○										3
		Advanced English I (EAP Language for Communication)	2前後			1			○										4
		Advanced English I (EAP Media Literacy)	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Communication & Culture)	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Career Preparation)	2前後			1			○										5
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Perspectives])	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [Arts & Sciences])	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Connections])	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Global Collaboration)	2前後			1			○										2
		Advanced English I (EAP Career Preparation 「I.C.」)	2前			1			○										1
		Advanced English I (EAP Basic 4 Skills)	2前			1			○										1
		Advanced English II (Academic Skills Development: Listening & Speaking)	3・4前後			1			○										1
		Advanced English II (Academic Skills Development: Reading & Writing)	3・4前後			1			○										1
		Advanced English III (Academic Topics)	3・4前後			1			○										1
		Honors English I	1・2・3・4前			1			○										1
		Honors English II	1・2・3・4後			1			○										1
		Honors Seminar	1・2・3・4前			2			○										1
		Language Study Abroad A	1・2・3・4			2			○										4
		Language Study Abroad B	1・2・3・4			2			○										1
		Language Study Abroad C	1・2・3・4			1			○										1
		Language Study Abroad D	1・2・3・4			1			○										1
		スポーツと健康	1前	○	2				○										6
		データサイエンス入門	1前	○	2				○			1							※講義
		SDGs入門	1後	○	1				○										2
	小計(36科目)	—	—	11	32	0	—	—			1	0	0	0	0	0	40		
教 養 科 目	基 盤 教 養 科 目	人間と文化への扉	1前後					○										17	
		社会と人間への扉	1前後					○										24	
		自然と環境への扉	1前後						○									49	
		ものづくり体験	1後						○									2	
		小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—		0	0	0	0	0	0	90		
リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目	人 文 科 学 系 科 目	思想と論理の世界A	1・2前					○										1	
		思想と論理の世界B	1・2前					○										1	
		思想と論理の世界C	1・2前後						○									1	
		人間発達の世界A	1・2後						○									1	
		人間発達の世界B	1・2前後						○									3	
		人間発達の世界C	1・2前後						○									2	
		文学の世界A	1・2後						○									1	
		文学の世界B	1・2前後						○									3	
		文学の世界C	1・2後						○									2	
		歴史の世界A	1・2後						○										1
		歴史の世界B	1・2前						○										1
		歴史の世界C	1・2後						○									1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)	
基盤教育科目	リベラルアーツ科目 人文科学系科目	芸術の世界A	1・2前後		2		○								4	
		芸術の世界B	1・2前		2		○								1	
		芸術の世界C	1・2前後		2		○								1	ｽﾃｲﾌﾞ
		異文化理解の世界A	1・2前		2		○								2	
		異文化理解の世界B	1・2前		2		○								2	
		異文化理解の世界C	1・2後		2		○								4	
		異文化理解の世界D	1・2前		2		○								2	
		言語表現の世界A	1・2前後		2		○								2	
		言語表現の世界B	1・2後		2		○								2	
		言語表現の世界C	1・2前		2		○								1	
生涯学習概論	1・2前		2		○								1			
心身の健康・発達の科学	1・2前		2		○								5	ｽﾃｲﾌﾞ		
小計(24科目)	—	—	0	48	0	—	—	—	0	0	0	0	0	41		
社会科学系科目	親密圏と公共圏の世界A	1・2後		2		○								1		
	親密圏と公共圏の世界B	1・2後		2		○								1	ｽﾃｲﾌﾞ	
	親密圏と公共圏の世界C	1・2前後		2		○								1	ｽﾃｲﾌﾞ	
	親密圏と公共圏の世界D	1・2前後		2		○								1	ｽﾃｲﾌﾞ	
	グローバル化の世界A	1・2前		2		○								1		
	グローバル化の世界B	1・2前後		2		○								2		
	グローバル化の世界C	1・2前		2		○								1		
	経済生活の世界A	1・2前後		2		○				1				3		
	経済生活の世界B	1・2前後		2		○								5		
	経済生活の世界C	1・2前		2		○								1	ｽﾃｲﾌﾞ	
	地域生活の世界A	1・2前		2		○								1		
	地域生活の世界B	1・2後		2		○								1		
	地域生活の世界C	1・2前		2		○								1		
	日本国憲法	1・2前後		2		○								3		
	グローバル化と外国にルーツをもつ子どもの教育	1・2前後		2		○								6	オムニバス	
	現代政治の理論と実際	1・2前		2		○								1		
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後		2		○								1		
	著作権法入門	1・2後		2		○								1		
	国際協力の実際と課題	1・2後		2		○								3		
小計(19科目)	—	—	0	38	0	—	—	—	1	0	0	0	0	33		
自然科学系科目	自然科学の世界A	1・2前		2		○								1		
	自然科学の世界B	1・2前		2		○								1		
	自然科学の世界C	1・2前後		2		○								2		
	科学技術の世界A	1・2後		2		○								2		
	科学技術の世界B	1・2後		2		○								2		
	科学技術の世界C	1・2後		2		○								3		
	人間生活と生物の世界A	1・2前		2		○								1		
	人間生活と生物の世界B	1・2後		2		○								1		
	人間生活と生物の世界C	1・2後		2		○								1		
	人間社会と情報の世界A	1・2前		2		○								1		
	人間社会と情報の世界B	1・2後		2		○								2		
	人間社会と情報の世界C	1・2前後		2		○						1		1	ｽﾃｲﾌﾞ・共同	
	人間生活と健康の世界A	1・2後		2		○								1		
	人間生活と健康の世界B	1・2後		2		○								1	ｽﾃｲﾌﾞ	
	人間社会と科学の世界A	1・2前		2		○								1		
	人間社会と科学の世界B	1・2前		2		○								2		
	人間社会と科学の世界C	1・2前		2		○				1				1	ｽﾃｲﾌﾞ	
	ICTを活用した教育の理論と実践	1・2前		1		○								1	※演習	
	バイオメテックス入門	1・2後		2		○								1		
	物質・材料の機器分析入門	1・2前		2		○								1		
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4		○								5	オムニバス	
	データサイエンス基礎	1・2前後		2		○						1		1	※演習・共同	
	データサイエンスのための数学	1・2前		2		○								1		
小計(23科目)	—	—	0	47	0	—	—	—	1	0	0	1	0	27		
初修外国語系科目	フランス語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						2		
	フランス語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						2		
	スペイン語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						1		
	スペイン語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						1		
	中国語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						1		
	中国語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						1		
	韓国朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						3		
	韓国朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						3		
小計(8科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
																	教
基盤教育科目	総合系科目 Iより始めよ	1・2前			2			○							1	※講義	
	小計 (1科目)	—	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	1		
	基盤キャリア教育A	1・2・3・4前後			2			○							2		
	基盤キャリア教育B	1・2・3・4前後			2			○							1		
	基盤キャリア教育C	1・2・3・4前後			2			○							2		
	基盤キャリア実習A	1・2・3・4前			1				○						1		
	基盤キャリア実習B	1・2・3・4前			2				○						3		
	小計 (5科目)	—	—	0	9	0	—		0	0	0	0	0	0	6		
	高度教養科目 高度教養セミナー	3後	○	1					○		9	6		1			※講義
	小計 (1科目)	—	—	1	0	0	—		9	6	0	1	0	0			
専門教育科目	必修科目 プログラミング演習1	1前	○	2				○			1					※講義	
	AI・機械学習入門	1後	○	2				○		1						※演習	
	確率・統計1	1後	○	2				○						1		※演習	
	確率・統計2	2前	○	2				○				1				※演習	
	小計 (4科目)	—	—	8	0	0	—		1	1	0	1	0	1			
	学系必修科目 データサイエンスの数理A	2前	○	2				○		1	1					※演習	
	データサイエンスの数理B	2前	○	2				○		1						※演習	
	プログラミング演習2	2後	○	2				○		1							
	AI・機械学習論1	2後	○	2				○			1						
	数理統計学	2後	○	2				○		1							
	データエンジニアリング	3前	○	2				○		1						※演習	
	AI・機械学習論2	3前	○	2				○						1		※演習	
	小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—		3	2	0	0	0	1			
	選択科目 AI活用実践演習	2前			2				○		1					1	集中
	多変量解析	2後			2				○		1						
データベースシステム	3前			2				○						1			
時系列解析	3前			2				○		1							
数値解析	3後			2				○			1					※演習	
システム解析入門	3後			2				○			1					※演習	
確率過程論	3後			2				○				1					
小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—		1	2	0	1	0	2				
経営学科目	必修科目 経営学概論	1後	○	2				○			1						
	ミクロ経済学	1後	○	2				○			1						
	経営管理論	2前	○	2				○		1							
	会計学概論	2前	○	2				○		1							
	小計 (4科目)	—	—	8	0	0	—		2	2	0	0	0	0			
	学系必修科目 金融論概論	2前	○	2				○		1							
	経営戦略論	2前	○	2				○		1					1		
	コーポレート・ガバナンス論	2後	○	2				○									
	財務会計論	2後	○	2				○		1							
	経営組織論	2後	○	2				○			1						
	人的資源管理論	3前	○	2				○			1						
	中小企業論	3前	○	2				○		1							
	小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—		3	2	0	0	0	1			
	選択科目 マクロ経済学	2前			2				○			1					
	企業法	2後			2				○						1		
管理会計論	3前			2				○		1							
NPO論	3前			2				○						1			
意思決定論	3後			2				○						1			
企業論	3後			2				○						1			
組織行動論	3後			2				○						1			
小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—		1	1	0	0	0	5				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門教育科目 総合・社会実装科目	データサイエンス・経営学の数理及び演習A	1通	○	3			○								1	※演習	
	データサイエンス・経営学の数理及び演習B	1通	○	3			○								1	※演習	
	社会実装基礎演習1	2前	○	2				○		9	6			1		共同	
	マーケティング論	2前	○	2				○		1						共同	
	社会実装基礎演習2	2後	○	2				○		9	6			1		共同	
	マーケティングリサーチ	2後	○	2				○		1						共同	
	経営情報論	2後	○	2				○			1					共同	
	社会実装応用演習1	3前	○	2				○		9	6			1		※演習	
	ビジネス・データサイエンス	3前	○	2				○			1					※演習	
	社会実装応用演習2	3後	○	2				○		9	6			1		※演習	
	社会実装実践演習	3後	○	3				○		9	6			1		※演習	
	データサイエンス・経営学特別演習	3後	○	3				○		9	6			1		※演習	
	卒業研究	4通	○	6				○		9	6			1		※演習	
	発表技術	4通	○	2				○		9	6			1		※演習	
小計 (14科目)	—	—	—	36	0	0	—	—	9	6	0	1	0	2			
専門教育科目 総合・社会実装科目	ゲーム理論入門	1前			2			○							1	※演習	
	経済・経営数学	2前			2			○			1					※演習	
	オペレーションズ・リサーチ	2後			2			○			1					※演習	
	社会統計学	2後			2			○							1	※演習	
	数理モデル	3前			2			○		1						※演習	
	インターンシップ	3前			2				○	1						※演習	
	計量経済学	3前			2			○							1	※演習	
	経営分析	3前			2			○							1	※演習	
	知的財産権	3前			2			○							1	※演習	
	アントレプレナーシップ論	3後			2			○							1	※演習	
	イノベーション・マネジメント	3後			2			○							1	※演習	
小計 (11科目)	—	—	—	0	22	0	—	—	2	1	0	0	0	7			
他学部等の科目	グローバル関係科目	Global Political Economy	1・2・3・4前			2			○						1	集中	
	Global Management: Asia and Development	1・2・3・4前			2				○					1	共同・集中		
	Risk Management	1・2・3・4前			2				○					1	集中		
	International Humanitarian Law in Theory and Practice	1・2・3・4後			2				○					1	集中		
	International Career Seminar	1・2・3・4前			2				○					3	共同・演習・集中		
	国際キャリア教育	1・2・3・4前			2				○					1	演習・集中		
	海外英語研修	1・2・3・4通			4				○					2	集中		
	小計 (7科目)	—	—	—	0	16	0	—	—	0	0	0	0	0	9		
データサイエンス 応用科目	GIS入門	2・3・4後			1			○							1		
	GIS演習 (コミュニティ)	2・3・4後			1				○						1		
	GIS演習 (建築・都市)	2・3・4後			1				○						1		
	GIS演習 (社会基盤)	2・3・4後			1				○						1		
	社会調査法入門	2・3・4前			2				○						1		
	アジア太平洋文化社会研究E (中東地域研究演習)	2・3・4前			2				○						1		
	人工知能とコンピュータビジョン	2・3・4後			2				○						1		
	データ構造とアルゴリズム	2・3・4後			2				○						1		
	応用画像工学	2・3・4後			2				○						3	オムニバス	
	化工シミュレーション	2・3・4後			2				○						1		
	機械数理II	2・3・4前			2				○						1		
	シミュレーションサイエンス	2・3・4前			2				○						8	オムニバス	
	森林空間情報工学	2・3・4前			2				○						1		
小計 (13科目)	—	—	—	0	22	0	—	—	0	0	0	0	0	19			
合計 (203科目)				—	—	66	308	0	—	—	9	6	0	1	0	233	
学位又は称号		学士 (経営情報学)		学位又は学科の分野			経済学関係、工学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
1. 基盤教育科目 28単位以上 [必修科目 (選択必修科目含む) 24単位、選択科目4単位以上を履修] 必修科目 (選択必修科目含む) 24単位の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 「新入生セミナー」を必修。 (2) リテラシー科目 13単位 「Integrated English IA」、「Integrated English IB」、 「Integrated English IIA」、「Integrated English IIB」、 「Advanced English I (異なる分野から2科目)」、 「スポーツと健康」、「データサイエンス入門」、「SDGs入門」を必修。 (3) 基盤教養科目 2単位							1学年の学期区分		2期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業の標準時間		90分								

「人間と文化への扉」、「社会と人間への扉」、「自然と環境への扉」、「ものづくり体験」から1科目2単位を選択必修。

(4) リベラルアーツ科目 6単位

人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位、自然科学系科目から2単位を選択必修。

(5) 高度教養科目 1単位

「高度教養セミナー」を必修。

選択科目4単位以上の履修方法

必修科目以外のリテラシー科目及び選択必修科目として履修した科目以外のリベラルアーツ科目から4単位以上を選択。

2. 専門教育科目 96単位以上

[必修科目52単位、学系必修科目14単位、選択科目30単位以上を履修]

必修科目52単位の履修方法

数理・データサイエンス科目、経営学科目、総合・社会実装科目の必修科目52単位を必修。

学系必修科目14単位の履修方法

(1) データサイエンス学系を選択した学生

「プログラミング演習2」、「データサイエンスの数理A」、「データサイエンスの数理B」、「AI・機械学習論1」、「数理統計学」、「データエンジニアリング」、「AI・機械学習論2」の7科目14単位を必修。

(2) 経営学系を選択した学生

「金融論概論」、「コーポレート・ガバナンス論」、「財務会計論」、「経営戦略論」、「経営組織論」、「人的資源管理論」、「中小企業論」の7科目14単位を必修。

選択科目30単位以上の履修方法

必修科目及び学系必修科目として履修した科目以外の専門教育科目から30単位以上を選択。

ただし、他学部等の科目からは8単位を上限とする。

また、「GIS演習（コミュニティ）」、「GIS演習（建築・都市）」、「GIS演習（社会基盤）」については、いずれか1科目のみ履修

(履修科目の登録の上限)

1年次は各学期30単位（年間60単位）、2～4年次は各学期24単位（年間48単位）を履修登録単位数の上限とする。

ただし、当該学期の直前の学期の成績評価でGPTが75以上かつGPAが3.75以上の成績を修めた場合は、2～4年次においても

各学期30単位を履修登録単位数の上限とする。

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く教員)	
基礎教育科目	初期導入科目	新入生セミナー	1前	○	2			○			6	4					社ニパス・共同(一部) ※演習	
		小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—			6	4	0	0	0	0		
基礎教育科目	リテラシー科目	Integrated English I A	1前	○	2			○									7	
		Integrated English I B	1前	○	1			○										8
		Integrated English II A	1後	○	2			○										7
		Integrated English II B	1後	○	1			○										8
		Advanced English I (EAP Reading I)	2前後			1			○									4
		Advanced English I (EAP Reading II)	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Reading & Vocabulary)	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Writing I)	2前後			1			○									3
		Advanced English I (EAP Writing II)	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Public Speaking])	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Presentation])	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Discussion & Debate])	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Listening & Speaking [World Englishes])	2前後			1			○									3
		Advanced English I (EAP Language for Communication)	2前後			1			○									4
		Advanced English I (EAP Media Literacy)	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Communication & Culture)	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Career Preparation)	2前後			1			○									5
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Perspectives])	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [Arts & Sciences])	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Connections])	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Global Collaboration)	2前後			1			○									2
		Advanced English I (EAP Career Preparation 「I.C.」)	2前			1			○									1
		Advanced English I (EAP Basic 4 Skills)	2前			1			○									1
		Advanced English II (Academic Skills Development: Listening & Speaking)	3・4前後			1			○									1
		Advanced English II (Academic Skills Development: Reading & Writing)	3・4前後			1			○									1
		Advanced English III (Academic Topics)	3・4前後			1			○									1
		Honors English I	1・2・3・4前			1			○									1
		Honors English II	1・2・3・4後			1			○									1
		Honors Seminar	1・2・3・4前			2			○									1
		Language Study Abroad A	1・2・3・4			2			○									4
		Language Study Abroad B	1・2・3・4			2			○									1
		Language Study Abroad C	1・2・3・4			1			○									1
		Language Study Abroad D	1・2・3・4			1			○									1
		スポーツと健康	1前	○	2				○									6
		データサイエンス入門	1前	○	2				○			2	2					※講義
		SDGs入門	1後	○	1				○									2
小計 (36科目)	—	—	—	11	32	0	—			2	2	0	0	0	42			
教養科目	基礎教養科目	人間と文化への扉	1前後			2		○									17	
		社会と人間への扉	1前後			2		○					1				24	
		自然と環境への扉	1前後			2		○			3	7		4			35	
		小計 (3科目)	—	—	0	6	0	—			3	7	0	4	0	74		
教養科目	人文学系科目	思想と論理の世界A	1・2前			2		○									1	
		思想と論理の世界B	1・2前			2		○									1	
		思想と論理の世界C	1・2前後			2		○									1	
		人間発達の世界A	1・2後			2		○									1	
		人間発達の世界B	1・2前後			2		○									3	
		人間発達の世界C	1・2前後			2		○									2	
		文学の世界A	1・2後			2		○									1	
		文学の世界B	1・2前後			2		○									3	
		文学の世界C	1・2後			2		○									2	
		歴史の世界A	1・2後			2		○									1	
		歴史の世界B	1・2前			2		○									1	
歴史の世界C	1・2後			2		○									1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員	
基盤教育科目	リベラルアーツ科目 人文科学系科目	芸術の世界A	1・2前後		2		○									4	
		芸術の世界B	1・2前		2		○									1	
		芸術の世界C	1・2前後		2		○									1	※ <i>イ</i>
		異文化理解の世界A	1・2前		2		○									2	
		異文化理解の世界B	1・2前		2		○									2	
		異文化理解の世界C	1・2後		2		○									4	
		異文化理解の世界D	1・2前		2		○									2	
		言語表現の世界A	1・2前後		2		○									2	
		言語表現の世界B	1・2後		2		○									2	
		言語表現の世界C	1・2前		2		○					1					
		生涯学習概論	1・2前		2		○									1	
		心身の健康・発達の科学	1・2前		2		○									5	※ <i>イ</i>
	小計(24科目)	—	—	0	48	0	—	—	—	0	0	1	0	0	41		
	社会科学系科目	親密圏と公共圏の世界A	1・2後		2		○									1	
		親密圏と公共圏の世界B	1・2後		2		○									1	
		親密圏と公共圏の世界C	1・2前後		2		○									1	※ <i>イ</i>
		親密圏と公共圏の世界D	1・2前後		2		○									1	※ <i>イ</i>
		グローバル化の世界A	1・2前		2		○									1	
		グローバル化の世界B	1・2前後		2		○									2	
		グローバル化の世界C	1・2前		2		○									1	
		経済生活の世界A	1・2前後		2		○									4	
		経済生活の世界B	1・2前後		2		○									5	
		経済生活の世界C	1・2前		2		○									1	※ <i>イ</i>
		地域生活の世界A	1・2前		2		○									1	
地域生活の世界B		1・2後		2		○									1		
地域生活の世界C		1・2前		2		○									1		
日本国憲法		1・2前後		2		○									3		
グローバル化と外国にルーツをもつ子どもの教育		1・2前後		2		○									6	※ <i>ハ</i> ・ <i>ス</i>	
経営学総論		前後		2		○									1		
現代政治の理論と実際		1・2前		2		○									1		
遊びの理論とゲーム開発		1・2後		2		○									1		
著作権法入門	1・2後		2		○									1			
国際協力の実践と課題	1・2後		2		○		○							3			
小計(20科目)	—	—	0	40	0	—	—	—	0	0	0	0	0	36			
自然科学系科目	自然科学の世界A	1・2前		2		○					1						
	自然科学の世界B	1・2前		2		○					1						
	自然科学の世界C	1・2前後		2		○					1						
	科学技術の世界A	1・2後		2		○					1				1		
	科学技術の世界B	1・2後		2		○					1	1					
	科学技術の世界C	1・2後		2		○									3		
	人間生活と生物の世界A	1・2前		2		○									1		
	人間生活と生物の世界B	1・2後		2		○									1		
	人間生活と生物の世界C	1・2後		2		○									1		
	人間社会と情報の世界A	1・2前		2		○					1						
	人間社会と情報の世界B	1・2後		2		○									2		
	人間社会と情報の世界C	1・2前後		2		○									2	※ <i>イ</i> ・共同	
	人間生活と健康の世界A	1・2後		2		○									1		
	人間生活と健康の世界B	1・2後		2		○									1	※ <i>イ</i>	
	人間社会と科学の世界A	1・2前		2		○					1						
	人間社会と科学の世界B	1・2前		2		○					1				1		
	人間社会と科学の世界C	1・2前		2		○					1				2	※ <i>イ</i>	
	ICTを活用した教育の理論と実践	1・2前		1		○					1				1	※ <i>演習</i>	
	バイオメティクス入門	1・2後		2		○									1		
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4		○		○							5	※ <i>ハ</i> ・ <i>ス</i>	
データサイエンス基礎	1・2前後		2		○		○							2	※ <i>演習</i> ・共同・※ <i>イ</i>		
実践データサイエンス	後		2		○		○							1	※ <i>演習</i>		
データサイエンスのための数学	1・2前		2		○		○							1			
AI入門	前後		2		○		○							1	※ <i>イ</i>		
小計(24科目)	—	—	0	49	0	—	—	—	7	3	0	0	0	23			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)以外の教員			
基盤教育科目	リベラルアーツ科目 初修外国語系科目 フランス語基礎Ⅰ フランス語基礎Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎Ⅱ 中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ 韓国朝鮮語基礎Ⅰ 韓国朝鮮語基礎Ⅱ 小計(8科目)	1・2前			1				○							2		
		1・2後			1				○							2		
		1・2前			1				○							1		
		1・2後			1				○							1		
		1・2前			1				○							1		
		1・2後			1				○							1		
		1・2前			1				○							3		
		1・2後			1				○							3		
	—	—	—	0	8	0			—		0	0	0	0	0	7		
	総合系科目	Iより始めよ	1・2前			2			○						1			※講義
小計(1科目)		—	—	0	2	0			—		0	0	0	1	0	0		
基盤キャリア教育系科目	基盤キャリア教育A	1・2・3・4前後			2			○								2		
	基盤キャリア教育B	1・2・3・4前後			2			○								1		
	基盤キャリア教育C	1・2・3・4前後			2			○								2		
	基盤キャリア実習A	1・2・3・4前			1					○						1		
	基盤キャリア実習B	1・2・3・4前			2					○						3		
	小計(5科目)	—	—	0	9	0			—		0	0	0	0	0	6		
高度教養科目	高度教養セミナー	4前後	○	1				○		36	33	1	21				※講義	
	小計(1科目)	—	—	1	0	0			—	36	33	1	21	0	0			
専門教育科目	共通専門科目 数学領域	基礎微積分	1前	○	2			○			2							
		基礎微積分演習	1前	○	1				○								3	
		基礎線形代数学	1前	○	2				○		1	1						
		基礎線形代数学演習	1前	○	1				○								2	
		微積分	1後		2			○		2								
		微積分演習	1後		1				○								2	
		線形代数学	1後		2				○		2	1						
		線形代数学演習	1後		1				○								2	
	小計(8科目)	—	—	6	6	0			—	3	1	0	0	0	0	5		
	物理学領域	基礎物理学	1前	○	2				○		2	2						
		波動・電磁気学	3・4前後		2				○			1						
		量子物理学	3前		2				○		1							
		熱統計物理学	3後		2				○		1							
	小計(4科目)	—	—	2	6	0			—	2	2	0	0	0	0			
	化学領域	基礎化学	1後		2				○		3							ホムパス
		小計(1科目)	—	—	0	2	0			—	3	0	0	0	0	0		
	データ科学領域	プログラミング	1後	○	2				○		2	2						
		確率・統計	1前	○	2				○								2	
		データ解析	2前	○	2				○		1	2		1				
		小計(3科目)	—	—	6	0	0			—	3	4	0	1	0	2		
	光工学領域	光科学入門	1後	○	2				○		3	1						
		小計(1科目)	—	—	2	0	0			—	3	1	0	0	0	0		
	生命人間情報科学領域	生命人間科学	1前	○	1				○		2							ｽﾀｲﾌﾞ
感性科学入門		1前	○	1				○		2							ｽﾀｲﾌﾞ	
共創コーチング		2・3・4前後		2				○							1			
小計(3科目)		—	—	2	2	0			—	2	0	0	0	0	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く			
																	0	1	2
専門教育科目	共通専門科目 コース入門領域	応用化学入門	1前後		1			○			1	1		1					オムバス
		機械システム工学入門	1前後		1			○			7								オムバス
		情報電子オプティクス・電気系入門	1前後		1			○			1								
		情報電子オプティクス・情報系入門	1前後		1			○			3								
		小計 (4科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	12	1	0	1	0	0			
	コース入門領域 マネジメント・キャリア領域	創成工学実践 I	1後	○	2				○		1	1		1					
		創成工学実践 II	2・3・4前後		2				○			1		1					
		創成工学実践 III	2・3・4前後		2				○			1		1					
		知的財産権概論	2・3・4前後		2				○									1	
		経営工学序論	3後		2				○			1							
		経営工学	4前		2				○			1							
		生産工学	4前		2				○			1							
		ものづくり実践講義	2後		1				○			1			1				
		インターンシップA	3・4前後		1						○	1			1				
インターンシップB		3・4前後		2						○	1			1					
工業科教育法 I		3前			2			○										1	
工業科教育法 II		3後			2			○										1	
職業指導		4通			4			○										1	
小計 (13科目)	—	—	2	16	8	—	—	—	—	1	1		1				4		
倫理教育領域	工学倫理	3後	○	2				○		4									
	小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0				
グローバル人材領域	Global Political Economy	1・2・3・4前後		2				○										1	
	Global Management:Asia and Development	1・2・3・4前後		2				○										1	
	Globalization and Society	1・2・3・4前後		2				○										1	
	Risk Management	1・2・3・4前後		2				○										1	
	Intercultural Education	1・2・3・4前後		2				○										1	
	国際キャリア教育	1・2・3・4前後		2				○										1	
	International Career Seminar	1・2・3・4前後		2				○										3	
	International Humanitarian Law in Theory and Practice	1・2・3・4前後		2				○										1	
	海外英語研修	1・2・3・4前後		4					○									2	
小計 (9科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0			10		
日本語領域	工業日本語基礎 I	3前		1				○					1						
	工業日本語基礎 II	3後		1				○					1						
	工業日本語応用	4前後		2				○					1						
	小計 (3科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	1	0	0	0				
応用化学コース専門教育科目	物理化学基礎	2前	○	2				○		1									
	有機化学基礎	2前	○	2				○			1								
	無機化学基礎	2前	○	2				○		1	1		1						
	分析化学基礎	2前	○	2				○		1	1								
	化学工学基礎	2後	○	2				○		1									
	量子化学基礎	2後	○	2				○		1									
	応用化学実験 I	2後	○	3						1	2		3					オムバス	
	応用化学実験 II	3前	○	3						1	2		3					オムバス	
	計算化学実験	3後	○	1						1	2		3					オムバス	
	卒業研究	4通	○	8						10	8		5						
	小計 (10科目)	—	—	27	0	0	—	—	—	9	7	0	5	0	0				
コース専門選択科目 A 群	物理化学平衡論	2後			2			○		1									
	有機合成化学	2後			2			○			1								
	溶液化学	2後			2			○		1	1								
	無機化学各論	2後			2			○		1	1		1						
	基礎生化学	2後			2			○		1	1								
	高分子化学	3前			2			○		1	1								
	電気化学	3前			2			○			1								
	無機材料化学	3前			2			○		1			1						
	移動現象論	3前			2			○		1									
	反応分離工学	3前			2			○		1									
	触媒化学	3後			2			○		1									
	光工学 I	3前			2			○		4	4		3					オムバス	
	光工学 II	3後			2			○		1	1							ｽﾀｲﾌﾞ	
	機器分析・光計測化学	3後			2			○			1								
小計 (14科目)	—	—	0	28	0	—	—	—	12	11	0	4	0	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員		
専門教育科目	応用化学コース専門教育科目B群	コロイド・界面物理化学	3前		2		○			1								
		有機スペクトル化学	3前		2		○			1								
		遺伝子工学	3前		2		○				1							
		量子化学	3後		2		○						1					
		精密有機化学	3後		2		○				1							
		応用有機化学	3後		2		○			1								
		単位操作・プロセス工学	3後		2		○			1								
		化工シミュレーション	3後		2		○			1								
		生物物理化学	3後		2		○						1					
		生命分子光学	3後		2		○					1						
		微生物生態学	3後		2		○						1					
		エネルギー概論	3後		1		○					1						
		マテリアルサイエンス	3前		2		○			7	5							オムバス
		シミュレーションサイエンス	3前		2		○			5	2		1					オムバス
		応用化学特別講義Ⅰ	1・2・3・4前後		2		○											1
		応用化学特別講義Ⅱ	1・2・3・4前後		2		○					1						1
		微生物学	3前		2		○											1
		食品化学	3後		2		○											1
		微生物工学	3後		2		○											1
小計(19科目)	—	—	—	0	37	0	—	—	16	11	0	5	0	—	—	4		
機械システム工学コース専門教育科目	コース専門必修科目	材料力学Ⅰ	2前	○	2		○											
		機械力学	2前	○	2		○											
		熱力学Ⅰ	2前	○	2		○											
		機械数理Ⅰ	2前	○	2		○											
		機械数理Ⅱ	2前	○	2		○			1								
		流体力学Ⅰ	2後	○	2		○			1								
		自動制御工学Ⅰ	2後	○	2		○					1						
		機械材料学	2後	○	2		○											1
		機械システム工学実習	2通	○	2		○			3	3		3					オムバス
		機械システム工学実験	3通	○	2		○			1	4		4					オムバス
		機械システム設計製図Ⅰ	2後	○	1		○			1	1		1					
		機械システム設計製図Ⅱ	3前	○	1		○				2		2					
		機械システム設計製図Ⅲ	3後	○	1		○				1		2					
		卒業研究	4通	○	8		○			9	7		6					
小計(14科目)	—	—	—	31	0	0	—	—	9	7	0	6	0	—	—	1		
コース専門教育科目	コース専門選択科目A群	メカトロニクス	2前		2		○				1		1					
		機械加工学	2前		2		○				1							
		機械要素設計	2後		2		○											
		精密加工学	2後		2		○			1								
		計測工学	2後		2		○			1								
		生体信号解析	2後		2		○						1					
		知能システム工学	3前		2		○					1						
		材料組織学	3前		2		○					1						
		マイクロ・ナノ工学基礎	3前		2		○			1								
		弾・塑性学	3前		2		○					1						
		光工学Ⅰ	3前		2		○			4	4		3					オムバス
		光工学Ⅱ	3後		2		○			1	1							対応
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	7	9	0	5	0	—	—	3		
コース専門教育科目	コース専門選択科目B群	材料力学Ⅱ	2後		2		○				1							
		熱力学Ⅱ	2後		2		○				1							
		流体力学Ⅱ	3前		2		○											
		自動制御工学Ⅱ	3前		2		○					1						
		応用幾何工学	3前		2		○					1						
		バイオメカニクス	3前		2		○					1						
		ロボット工学	3後		2		○					1		1				
		ロボット力学	3後		2		○					1						
		機械材料のためのX線回折	3後		2		○					1						
		マテリアルサイエンス	4前		2		○			7	5							オムバス
		シミュレーションサイエンス	4前		2		○			5	2		1					オムバス
機器分析・光計測化学	3後		2		○					1								
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	18	11	0	2	0	—	—	0		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く		
専門教育科目 情報電子オプティクスコース コース専門選択科目B群	人工知能とコンピュータビジョン	3後			2		○				1						オムバス
	応用画像工学	3後			2		○			1	1		1				
	発展電力工学	4前			1		○				1						
	電力応用実験	4前			1				○		1						
	電気法規	4後			1		○									1	
	小計(33科目)	—	—	0	59	0	—	—	—	—	14	16	0	1	0	3	
合計(322科目)				—	—	116	477	8	—	—	36	33	1	21	0	210	
学位又は称号		学士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
1. 基盤教育科目 27単位以上 〔必修科目(選択必修科目を含む)20単位, 選択科目7単位以上を修得すること。〕 必修科目(選択必修科目を含む)20単位の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 「新入生セミナー」を必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 「スポーツと健康」, 「データサイエンス入門」, 「SDGs入門」, 「Integrated English I A」, 「Integrated English I B」, 「Integrated English II A」, 「Integrated English II B」, 「Advanced English I (異なる分野から2科目)」を必修。 (3) 基盤教養科目 2単位 「人間と文化への扉」, 「社会と人間への扉」, 「自然と環境への扉」から1科目2単位を選択必修。 (4) リベラルアーツ科目 2単位 人文科学系科目または社会科学系科目から2単位を選択必修。 (5) 高度教養科目 1単位 「高度教養セミナー」を必修。 選択科目7単位以上の履修方法 必修科目以外のリテラシー科目及び選択必修科目として履修した科目以外のリベラルアーツ科目から4単位以上を選択。									1学年の学期区分			2期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業の標準時間			90分					
2. 専門教育科目 98単位以上 ※「職業指導」, 「工業科教育法Ⅰ」, 「工業科教育法Ⅱ」は卒業単位に含めない。 〔応用化学コース: 必修科目(選択必修科目を含む)78単位, 選択科目20単位以上を修得すること。〕 (1) 共通専門科目22単位, コース専門必修科目27単位をすべて修得すること。 (2) コース専門選択科目A群, コース専門選択科目B群から29単位修得すること。 (コース専門選択科目A群から14単位, コース専門選択科目B群から1単位を必ず修得すること。) (3) 共通専門科目, コース専門選択科目A群, コース専門選択科目B群, 他コース専門選択科目A, B群から合計20単位以上を修得すること。 ((1)(2)で修得した科目を除く。) 〔機械システム工学コース: 必修科目(選択必修科目を含む)82単位, 選択科目16単位以上を修得すること。〕 (1) 共通専門科目22単位, コース専門必修科目31単位をすべて修得すること。 (2) コース専門選択科目A群, コース専門選択科目B群から29単位修得すること。 (コース専門選択科目A群から14単位, コース専門選択科目B群から2単位を必ず修得すること。) (3) 共通専門科目, コース専門選択科目A群, コース専門選択科目B群, 他コース専門選択科目A, B群から合計16単位以上を修得すること。 ((1)(2)で修得した科目を除く。) 〔情報電子オプティクスコース: 必修科目(選択必修科目を含む)76単位, 選択科目22単位以上を修得すること。〕 (1) 共通専門科目22単位, コース専門必修科目22単位をすべて修得すること。 (2) コース専門選択科目A群, コース専門選択科目B群から32単位修得すること。 (コース専門選択科目A群から20単位を必ず修得すること。) (3) 共通専門科目, コース専門選択科目A群, コース専門選択科目B群, 他コース専門選択科目A, B群から合計22単位以上を修得すること。 ((1)(2)で修得した科目を除く。) 																	

(履修科目の登録の上限)

1年次は各学期30単位（年間60単位）、2～4年次は各学期24単位（年間48単位）を履修登録単位数の上限とする。

ただし、当該学期の直前の学期の成績評価でGPTが75以上かつGPAが3.75以上の成績を修めた場合は、2～4年次においても各学期30単位を履修登録単位数の上限とする。

授 業 科 目 の 概 要				
(地域創生科学研究科総合情報学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
地域創生 学際的思考力 リテラシー	地域創生デザイン&イノベーション		文系や理系の区別なく、21世紀の人間社会を考える基盤として生命科学の素養を深めることによって、根源的視野と俯瞰的視野の涵養を図る。持続可能な地域社会の創生にとって重要な課題や21世紀の人間社会をとりまく諸課題について、専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して、分野横断的な思考力やコミュニケーション能力の伸張を図る。	共同、メディア
	アカデミックコミュニケーションⅠ		研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により、広い視点から専門知識への理解度を深めると共に、より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。 具体的には、各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で、多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が、それぞれの専門分野における先端研究の動向や、分野を取り巻く課題、或いは、各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法等について、意見交換・議論を行う。  (30 鶴田 直也) (29 山登 一輝) 情報工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (5 長谷川 光司) データサイエンス分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (24 土屋 翔) 経営情報学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (73 中川 敦) コミュニティデザイン学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (59 福田 竜一) 農業・農村経済学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (43 西山 未真) 農業・農村経済学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (76 藤本 郷史) 建築学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (72 皆川 浩) 土木工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (57 松井 宏之) 農業土木学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (67 飯山 一平) 農業土木学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (82 藤井 広重) グローバル・エリアスタディーズ分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。  (98 申 恵媛) グローバル・エリアスタディーズ分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。	共同、メディア

地域創生リテラシー	学際的思考力	アカデミックコミュニケーションⅠ	<p>(33 長谷川 万由美) 多文化共生学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(32 中村 真) 多文化共生学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(88 長谷川 佑介) 地域人間発達支援学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(62 株田 昌彦) 地域人間発達支援学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(37 大谷 幸利) 光工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(52 NATHAN ADRIAN HAGEN) 光工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(49 松田 勝) 分子農学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(95 荷方 稔之) 物質環境化学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(48 前田 勇) 農芸化学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(38 長谷川 裕晃) 機械知能工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(45 尾崎 功一) 機械知能工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(40 古神 義則) 電気電子システム工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(42 山根 健治) 農業生産環境保全学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(77 林 宇一) 森林生産保全学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p>	
		アカデミックコミュニケーションⅡ	<p>研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により、広い視点から専門知識への理解度を深めると共に、より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。</p> <p>具体的には、各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で、多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が、それぞれの専門分野における先端研究の動向や、分野を取り巻く課題、或いは、各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法等について、意見交換・議論を行う。</p> <p>(30 鶴田 直也) (29 山登 一輝) 情報工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p>	共同、メディア

地域創生リテラシー	学際的思考力	アカデミックコミュニケーションⅡ	<p>(5 長谷川 光司) データサイエンス分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(24 土屋 翔) 経営情報学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(73 中川 敦) コミュニティデザイン学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(59 福田 竜一) 農業・農村経済学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(43 西山 未真) 農業・農村経済学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(76 藤本 郷史) 建築学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(72 皆川 浩) 土木工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(57 松井 宏之) 農業土木学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(67 飯山 一平) 農業土木学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(82 藤井 広重) グローバル・エリアスタディーズ分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(98 申 恵媛) グローバル・エリアスタディーズ分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(34 湯澤 伸夫) 多文化共生学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(35 松井 貴子) 多文化共生学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(88 長谷川 佑介) 地域人間発達支援学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(62 株田 昌彦) 地域人間発達支援学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(37 大谷 幸利) 光工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(52 NATHAN ADRIAN HAGEN) 光工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p>	

地域創生リテラシー	学際的思考力	アカデミックコミュニケーションⅡ	<p>(49 松田 勝) 分子農学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(95 荷方 稔之) 物質環境化学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(48 前田 勇) 農芸化学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(38 長谷川 裕晃) 機械知能工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(45 尾崎 功一) 機械知能工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(40 古神 義則) 電気電子システム工学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(42 山根 健治) 農業生産環境保全学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p> <p>(77 林 宇一) 森林生産保全学分野に係る、オープンゼミを設け、異なる研究分野の研究者・教員・実務家及び学生との研究交流を進め、高度な専門知識・技術及び学際的な思考力・実践力を養成する。</p>	
		実践経営マネジメント概論	経営トップなど組織の長にある複数の学外講師の講義を通して、経営に関する基礎知識、戦略的意志決定手法とその組織運営方法、マーケティング、国際化戦略などを学ぶ。また、組織の運営、経営における情報の役割（経営と情報、情報処理技術）などを、具体的な事例によって理解する。なお、アメリカでは工学と経営学の両方を学んだ大学院修了者をゴールデンキャリアと呼び、高い社会的、企業的评价を受けている。	
		観光地理学研究	日本および特定地域における農村観光の特徴を学習し、今後の農村観光による地域振興の可能性を議論する。 具体的には、農村観光の特徴、都市観光の特徴、学生の専門分野と観光を絡めた発表などの授業を計画している。	標準外
		社会的企業論	経済的利益と社会的利益の両方が期待できるソーシャルビジネスを農村地域資源の持続的 management のための手法として講義する。理論的整理に加えて、具体的なデータを用いて事例分析も行う。 具体的には、ソーシャルビジネスの定義、ソーシャルビジネス登場の背景、ソーシャルビジネスの理論整理、ソーシャルビジネスの事例分析、農村地域振興のためのソーシャルビジネスの役割などの授業を計画している。	
		防災と国際協力Ⅰ	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題である。本講義では防災と国際協力をめぐる論点や現状、及び課題を解説し、国内外の事例を用いて議論をすすめる。具体的には、災害発生前の備え、災害発生時後の緊急、復旧、復興期の取り組みや対策を含む「防災サイクル」の考え方を視点に、近年国内外で発生した大災害の事例を検証する。特にこれまでの開発途上国で防災国際協力事業に携わった経験を生かして、海外の被災地の現状や特性について解説し、国内外で実際に行った事例を用いて議論する。	隔年
		環境問題とガバナンスⅠ	グローバリゼーションが進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みも、先進国・途上国双方において進行中である。授業では、経済活動に伴う環境問題の受苦・受益の関係を構造的に捉え、社会的ジレンマを解消していくために、国際・国内社会がどのように向かってきたかを学び、持続可能な発展にむけたガバナンスの在り方について考察する。	隔年
人間の安全保障と国連Ⅰ	本講義では、人間の安全保障 (human security) 概念の歴史的展開について検討しつつ、同概念が主に国連の安全保障分野の意思決定や活動に与えている影響について、国際関係論、国際機構論の手法を用いながら検討する。具体的には、関連する先行研究に加えて、国連機関の報告書等を資料として用いしつつ、国連安全保障体制における文民の保護の位置づけとその実行について、国連平和維持活動 (PKO) や「保護する責任 (responsibility to protect)」との関係性に注目しつつ研究する。	隔年		

地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	国際人権保障と平和構築 I	<p>本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力の一端を身につけることを目的とする。</p> <p>本科目は、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムが如何に機能しているのか、また如何なる課題に直面しているのかを専門的に考察し、分析するためのスキルを習得するための基本的な枠組みを理解することが目的である。特に、国際人権法、国際人道法および国際刑事法の形成過程とこれらの法律に関わる国際的な裁判所、国際機関および市民社会などの多様なアクター達とのつながりに焦点を当てる。</p>	隔年
			東アジアの国際政治と歴史 I	<p>東アジア国際政治の歴史を専門的に理解・分析するための導入科目であり、当該地域の国際秩序が歴史的にどのように形成されてきたのかを専門的に理解・分析するための基本的知識を修得することが目的である。</p> <p>(1) 世界戦争と戦後平和秩序という近現代国際政治史全体のダイナミズム、(2) 第二次世界大戦後の地域秩序の特徴、(3) 冷戦後の地域秩序の特徴について理解を深める。</p> <p>いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>	隔年
			ラテンアメリカの経済と社会 I	<p>After a decade of neoliberal economic policies in most countries of the region, in the 2000s a trend to implement leftist and populist policies was observed amongst several governments.</p> <p>This pendulum-like movement, from pure free-market strategies to regulatory government intervention, has been one of the most salient characteristics of the region in the last quarter-century, and it serves as a framework to study the effects and multiple responses from domestic and foreign actors. The analysis will also be framed within the recent trends in global political economy.</p> <p>This class is open to graduate students interested in Latin American issues, particularly Latin American politics, economy and society.</p> <p>(和訳)</p> <p>本地域における自由主義政策の世紀の後、2000年代には、複数の政府において、左派ポピュリズム政策がみられた。純粋な自由主義政策から、政府の規制・介入政策への振り子のような動きは、この地域の四半世紀の顕著な特徴として挙げられる。また国内・海外アクターの複数の対応や影響を研究する枠組みにも寄与している。本授業は、ラテン・アメリカ、特にラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心のある大学院生を対象とする。</p>	隔年
			東アフリカの社会開発と文化 I	<p>社会開発に関する基礎的な理論理解とともに、東アフリカにおける社会開発の状況と、該当地域における文化について学ぶことを目的とする。</p> <p>授業においては、以下の4点について学ぶ。</p> <p>(1) 「社会開発」に関する先行研究に基づき、複数の視点を学ぶ。(2) 東アフリカの地理・言語・民族・歴史・文化について学ぶ。</p> <p>(3) 東アフリカの事例としてタンザニアを取り上げ、社会開発の状況について時代を追って、独立以降、構造調整時代、貧困削減・経済自由化時代における状況を分析する。具体的には、それぞれの時代の政策を精査するとともに、経済、生計戦略、教育、保健などの分野における統計を分析する。</p> <p>(4) タンザニア国内における地域差とその背景を理解する。</p> <p>いずれのトピックもグローバル化やグローバルな目的を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。</p>	隔年

地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	Political Change and Development in Southeast Asia I	<p>本大学院レベルのコースでは、東南アジアのダイナミックな政治状況を批判的に考察し、政治的変化と発展の相互作用に焦点を当てる。</p> <p>東南アジアは過去数十年間で、統治構造、経済政策、市民社会運動において大きな変革を経験しており、その変化は歴史的遺産、地政学的要因、国内の政治的ダイナミクスによって形成されてきた。本コースは、東南アジアの政治発展の概要を提供し、植民地時代から独立、そして現在の地域間の相互依存の成長に至るまでの20世紀と21世紀の発展をカバーする。</p> <p>本コースでは、国家および非国家アクターの役割、民主化の軌跡、権威主義の持続性、国家と軍の関係、安全保障開発、グローバルおよび地域機関が政治変革に与える影響について、詳細に分析する。地域全体を対象とするが、特にインドネシア、フィリピン、ミャンマー、マレーシア、タイに重点を置く。まず、地域とその人々に関する簡単な紹介から始める。</p> <p>学生は、政治移行、統治の課題、開発政策の複雑さを理解するための主要な理論的枠組みや実証的事例を探索する。本コースでは、植民地時代の遺産、権威主義政権の興亡、軍事・政治エリートへの役割、文民統制と軍の関係、選挙政治、地方分権、アイデンティティと民族政治などの重要なテーマを取り上げる。さらに、ASEANや主要国、国際機関といった外部アクターが、地域の政治や社会発展にどのような影響を与えているのかについても検討する。</p>	隔年
			都市と移民・エスニシティ I	<p>本科目は、社会学の視座から現代の都市や移民・エスニシティを取り巻く状況を理解し、分析するための知識や枠組みを修得することを目的とする。そのために、関連内容の講義・議論や指定文献の講読・解説を通じて、社会学の基本的な考え方を共有し、特に都市社会学や移民・エスニシティ研究に関連する基礎概念や代表的な学説を確認しながら、日本を中心とする国内外の事例を用いて理解を深めることを目指す。具体的には、受講者の関心を考慮しながら、都市におけるエスニック空間、地域の多文化共生、移民政策等のトピックを取り上げる予定である。</p>	隔年
			感情コミュニケーションと社会的共生 I	<p>社会的共生とは、文化、性別、ハンディキャップの有無など異なる背景をもつ複数の集団が、たとえ利害が対立していても相互に排他的にふるまうことなく、一定のレベルで対等な関係を維持しつつ生活している状況である。</p> <p>この授業では、社会的共生の基盤となる感情と対人コミュニケーションに関する研究分野において、とくに表情を媒体にした感情のコミュニケーションに焦点を当てる。まず、感情、コミュニケーション、共感をキーワードとし、これらのキーワードに関する基礎的知見と最新の研究に関する情報を提供するとともに、他者の感情や心理状態への共感のプロセスに関する近年の研究や理論を紹介する。これらの知見と理論に基づき、感情コミュニケーションと共感が、どのように社会的共生の実現に貢献しうるのか、もしくは阻害要因として作用するのかについて検討する。</p>	
			アメリカ文化研究 I	<p>アメリカ合衆国の歴史を様々なテーマから概観する。具体的には、米国の環境・地理、経済、政治思想・政治史、国民統合、宗教、大衆文化について文献を読み、知識を身につける。</p> <p>具体的には、環境と空間、経済の発展、政治思想、政治の歴史の変容、国民統合のプロセス、宗教と国民意識、ポピュラーカルチャーなどの授業を計画している。</p>	メディア
			フランス思想・文化研究 I	<p>現代社会が直面する多様な問題を的確にとらえ、ますます複雑化する社会の変化に柔軟に対応していくためには、文献や資料の論理的な読解力や要約力を養うこと、そして過去の事例から学びつつ、未来を切り開く知識や思考力を身につけることがきわめて重要である。本授業ではフランス思想史・文化に関する邦訳文献を講読し、歴史や哲学に関する理解を深めながら、多文化共生社会に関する文化的・社会的な諸問題を理解し解決していくための手掛かりを探索する。</p>	演習13時間 講義2時間
			シティズンシップ教育 I	<p>定住する外国人の増加や2020オリンピック・パラリンピックを契機とした多文化共生社会推進の機運の高まりを受け、多文化共生社会を形成する一員としての意欲や態度としてのシティズンシップ(市民性)を理解し、シティズンシップを育成するための教育、すなわちシティズンシップ教育が必要となってきた。本講義ではこのような社会の要請を前提に、シティズンシップ教育の在り方や進め方について理解を深めるために、主として日本での現状について文献や資料を読み議論を深める。また、日本のシティズンシップ教育の議論に影響を与えている英国におけるシティズンシップ教育の展開や、シティズンシップ教育の具体的な実践領域として主権者教育、福祉教育、サービスマーケティング、ボランティア学習をとりあげ、実践上の課題についても検討する。</p>	
			日本文化研究 I	<p>日本文化は、伝統的には中国からの影響を受け、さらに、西洋からの影響を受けて近代化した。近代化を経て、現代に継承されている日本文化には、様々な文化が融合し、内包されている。その一方で、日本文化には、同質性が高いという特徴がある。このような特質を持つ日本文化について実践的に考察を進める。</p> <p>日本の伝統的な文芸を教材として、日本語の語りを実践的に探究する。</p> <p>日本語の母音と子音の構音を意識化し、効果的に行うこと、機能的な呼吸、姿勢、発声のための身体の使い方を講義と実技によって学ぶ。</p>	メディア

地域創生リテラシー	学際的思考力	文系科目群	英語学研究 I	英語統語論と英語形態論への理解を深めながら、一般文法理論とのかかわりにも注意を払う。研究活動への基礎を固めるために、専門文献の読解力を養いつつ、いくつかの主要なアプローチについて、思考法の要諦を学ぶ。その際、現代英語を具体例に取り上げながら考察を深めるが、本コースで特に注意を払う点として、話し言葉と書き言葉の対比、標準的な言葉と非標準的な言葉の対比、自発的な言葉と準備された言葉の対比、および文法と使用(用法)の対比を挙げることができる。このような点から得られる知見は、構文、オンラインでの処理、言語類型論、第一言語習得理論などの様々な領域において、自発的な話し言葉の研究が不可欠であるということである。授業は主として講義形式であるが、第7, 8回目の「文献講読と討議」を含め、受講者主体のレポートやディスカッションも取り入れていく。	
			外国にルーツをもつ子ども・青年と教育 I	本授業では、多文化共生に関して、わが国で現代的な課題になっている「外国人児童生徒教育」の問題を取り上げる。そして、(1)国際的な移民問題、(2)日本における在日朝鮮人と彼らに対する教育、(3)ニューカマーと彼らに対する教育、(4)就学や高等学校・大学進学問題、(5)先進地域(愛知県豊田市・小牧市、神奈川県大和市など)の教育実践、特に母語・母文化教育を重視し、より自分らしく生きられることをめざした教育実践、等に関して、意義、歴史的背景、現状、論点、課題がわかるように講義を行う。また併せて各回の授業において、関連するテーマの代表的な先行研究を批評し、研究の余地も明らかにしながら当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。毎回の授業では受講者による意見発表・意見交換を行い、自ら考えざるを得なくなる機会を設け、理解が深まるようにする。	
			西洋近現代哲学研究 I	この授業では、19世紀イギリスの哲学者J. S. ミルの『功利主義論』を精読する。本書は人々の幸福ないし効用を最大化することを道徳の根本原理に据える功利主義の古典的著作である。功利主義に対しては様々な批判も寄せられているが、現代社会における道徳規範の根拠を考える際、ミルの思想は今なおお色あせないアクチュアリティをもっている。この授業では当該のテキストを丁寧に読解し、ミルの倫理思想を深く理解すると共に、テキスト読解の過程で湧いてきた疑問点を皆で出しあい、ディスカッションを行う。	
			日本語史と日本語研究 I	この授業では日本語学および日本語史の各領域(音声・音韻、語彙、文法、社会言語学、歴史言語学等)のいずれかの領域に関する基礎的な専門文献をとりあげ(参加者の希望により年度ごとにとりあげる領域を選定する)、文献の精読と検討をおこなう。例えば、文法領域の文献をとりあげる場合、「音韻と文法との関係」、「語彙的なものと文法的なもの」「言語の形式」「語形変化システム」等、各回のテーマを設定し、それぞれのテーマにそって演習形式で授業をおこなう。授業活動をとおして、当該専門領域における学問的状況と課題とを理解するとともに、各自の母語の言語変化に関する現象について主体的に観察するとともに、自らが理解、考察した内容を、他の受講者とともに検討できるように整理し、表現する力を身につける。こうした活動をとおして、主体的に研究を進めていくための思考力、表現力の基礎を養うことを目標とする。	
			日本語音声学 I	講義が主体ではあるが、調音音声学(Articulatory Phonetics)の性質上、実践を伴う。留学生が日本語標準語の発音に上達する為に調音音声学を学ぶという主旨のものであり、その入り口の段階である。もちろん、日本語母語話者が自身の発音について深く知る為に参加することも可能である。具体的には、調音音声学の講義と実践、調音音声学の講義と実践などの授業を計画している。	
			技術日本語	大学院の授業や研究室、学会で使用する日本語に特化し、表現や発表技術を学ぶ。学生がそれぞれ自分の専門についてポスター発表を行う。聞き手の立場に立って分かりやすく伝えるためにはどうすればいいのか実践をふまえ、日本語の表現力を磨く。具体的には、授業およびポスター発表についての説明、日本語表現/伝える技術、日本語表現/ポスター作成、ポスター発表会、などの授業を計画している。	
			文系のためのオプト・バイオサイエンス入門	光が、これまで科学の発展にどのようにかかわってきたか、これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する。光が、これまで産業の発展にどのようにかかわってきたか、これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する。最後に、光が我々の身の回りの生活の中で、どのように関わっているかを、これから、我々の生活をより良くするために関係してくるかを議論する。 バイオサイエンス(生物学・生命科学)の発達により、社会生活が大きく変わってきている。しかし、その原理を理解していないと誤った報道に流され判断を誤る場合もある。基本原理を正しく理解することで、正しい判断をすることができる。バイオサイエンス分野の技術が身の回りの生活の中で、どのように関わっているか、またこれから我々の生活をより良くするためにどのように関係してくるかを議論する。	オムニバス、メディア
	理系科目群				

地域創生リテラシー	学際的思考力	理系科目群	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門	<p>&lt;オムニバス方式/全8回&gt;</p> <p>(49 松田 勝/2回) (第1回) 遺伝子と生物-I (第2回) 遺伝子と生物-II</p> <p>(70 西川 尚志/1回) (第3回) 植物ウイルスとワクチン開発</p> <p>(79 黒倉 健/1回) (第4回) 遺伝子組換え生物</p> <p>(71 藤村 隆史/1回) (第5回) 光と情報記憶</p> <p>(52 NATHAN ADRIAN HAGEN/1回) (第6回) 光と目視観察</p> <p>(83 長谷川 智士/1回) (第7回) 光と材料加工</p> <p>(55 山本 裕紹/1回) (第8回) 光と映像</p>	
			社会現象の数理	<p>都市を分析するうえでの高度な分析手法およびデザイン理論、技術者倫理について学ぶ。</p> <p>本科目では、地域における現在の社会問題を、統計や数理、地理情報システム (GIS) やRESAS等で読み解く、数理的解釈や数理的論理性を取得することを目的とする。講義では、現象の読み解き方、統計の扱い方、解析の手法等、基礎的な分析手法を学ぶとともに、それらが制度や法律等に実装されるまでの一連の流れを学ぶ。またそれらの各種手法を用い、各々が設定した社会現象について、数理的解釈の演習を行う。さらには、数理的解釈を行う上での倫理的教育も行う。</p>	
			食品機能科学	<p>健全な食品を提供するためには、食品が持つ様々な特性を理解することが不可欠となる。この講義では、食品の美味しさを構成する成分とその化学変化について解説する。また、乳化などの工学的なアプローチも食品の美味しさの重要な要素であることを学ぶ。さらに、発がんリスク低下や免疫系調節などの生体機能調節に関わる成分について理解を深める。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全8回&gt;</p> <p>(41 橋本 啓/4回) (第1回) 食品の色の化学(1)-カロテノイド、クロロフィル (第2回) 食品の色の化学(2)-ポリフェノール (第3回) 食品の匂いの化学 (第4回) 食品の変色の化学</p> <p>(91 山田 潔/4回) (第5回) 畜産食品の機能成分-肉、卵 (第6回) 畜産食品の機能成分-乳 (第7回) 食品成分が作用する免疫系と腸内微生物 (第8回) 食品成分による免疫系調節</p>	オムニバス
メカニカル・エンジニアリング	<p>機械工学の基盤となる熱流体、マテリアル工学、マイクロ・ナノ工学、先進的なロボットやバイオメカニクス、航空宇宙分野、ヒューマン・ダイナミクス、オプトメカトロニクスなどの領域について概説する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全8回&gt;</p> <p>(45 尾崎 功一/4回) (第1回) ガイダンス (第3回) ロボット・メカトロニクス分野の紹介 (第7回) 学生が研究室を訪問し、実験装置等を実際に見学し、具体的な研究内容のイメージを理解する。 (第8回) 学生が研究室を訪問し、実験装置等を実際に見学し、具体的な研究内容のイメージを理解する。</p> <p>(46 吉田 勝俊/1回) (第2回) 力学・制御分野の紹介</p> <p>(47 馬淵 豊/1回) (第4回) 熱・流れ分野の紹介</p> <p>(36 鄒 艶華/1回) (第5回) 材料・加工分野の紹介</p> <p>(37 大谷 幸利/1回) (第6回) 機械系オプティクス分野の紹介</p>	オムニバス			

地域創生リテラシー	学際的思考力	理系科目日群	情報電気電子システム工学概論	<p>文系の学生が情報電気電子技術の概要を学ぶための講義。基礎知識だけでなく、現在社会的に注目を集めているようなトピカルな当該分野の技術について、各分野を専門とする講師がオムニバス形式で解説する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全8回&gt;</p> <p>(40 古神 義則/4回)  (第1回) ガイダンス・情報電気電子分野のひろがり  (第2回) 通信分野技術の最新動向  (第3回) 電磁エネルギー分野技術の近年の発展  (第4回) 電子技術の動向</p> <p>(23 濱村 真理子/2回)  (第5回) 感性情報工学の最近の動向  (第6回) 感性情報工学の今後の応用・発展</p> <p>(11 長谷川 まどか/1回)  (第7回) 画像符号化分野技術の動向</p> <p>(4 伊藤 聡志/1回)  (第8回) 医用画像処理分野の動向</p>	オムニバス、メディア
			博物学史	<p>生物学をはじめ、幅広い自然科学の分野が博物学から分化してきた。つまり、自然科学のそれぞれの分野は他の分野と呼应しながら、また、個々の時代の社会情勢や風潮に後押しされながら、発展してきたのである。本講義では、博物学の中の特に生物学について、その発展と広がり歴史を見ていく。</p> <p>具体的には、西洋博物学の黎明期（ルネサンスまで）、ルネサンス以降の西洋博物学、19世紀の西洋博物学、17～19世紀の日本の博物学などの授業を計画している。</p>	メディア
			文系のためのデータサイエンス	<p>今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、あらゆる分野において多種多様な大量のデータで溢れている。そしてそれらのデータから価値ある情報を抽出し、予測、意思決定、自動化、最適化、課題解決等に活用する一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになった。本科目では、データサイエンスの基礎となる数理的思考（統計学）とExcelを用いたデータ分析手法を講義と実習を併用した形式で学習する。また、数学に苦手意識のある人や統計学に馴染みのない人でも理解できるように、基礎的内容を重点的に解説する。</p>	メディア
			実践インターンシップ	<p>机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが、実際に企業、自治体の事業所あるいはNPO、教育機関、その他の団体など（以下「企業等」と略す）で実社会での実務あるいは実践活動（以下「実務等」と略す）を体験することも重要である。この授業では、実際に企業等において、経験豊富な実務者、特に建築設計の分野では一級建築士の指導を受け、建築士事務所における建築設計、工事監理の補助等の実務を体験するものである。</p> <p>具体的には、事前指導において、大学院の専門領域や境界領域に関連したリスクマネジメント等を指導し、その後、実際に企業等において実務等の体験を行い、企業等への報告を兼ねたレポートを提出する。インターンシップ終了後には、事後指導として、提出されたレポートに基づいた発表会を実施し、学修効果の確認を行う。</p>	共同
			実践フィールドワーク	<p>学外で行う調査研究活動（個別またはグループ）をフィールドワークと位置づけて、その計画、実践、分析、結果（提言）の纏めに至る一連のスキームを体験学修する。</p> <p>調査研究対象の選定から、現地調査地・機関等の連絡調整、現地でのヒヤリングやアンケート調査、観察等を分析して得られた知見を広く社会に公表できる形式で纏める。</p>	共同
実践力	創成工学プロジェクト演習	<p>原則、学生の専門の区別をせず、文理融合のメンバーにより、主に商品開発を目的としたプロジェクトチーム（4～6名）を結成し、実践的な視点から開発プロセスの計画を立案する。</p> <p>具体的には、全体ガイダンス、プロジェクトの検討と原案の提出、創成活動、中間発表、最終報告会などの授業を計画している。</p>			
	アントレプレナーシップ・プロジェクト演習	<p>大学におけるベンチャーのかかわり方を中心に、現在の代表的な起業事例を多く検討する。また、実務家からの講演等も拝聴することで、大学におけるベンチャー作りやエコシステム形成の問題を明らかにし、今後の日本の産業のエンジンとなるような取り組みを検討していく。</p> <p>具体的には、ベンチャー企業の定義と成長、アントレプレナーシップ、企業作りのための社会インフラ、大学・公的研究機関から技術移転活動と企業創出などの授業を計画している。</p>			

地域創生リテラシー	実践力	International Political Economy	<p>The course introduces students to some major topics in IPE, such as globalization, free trade, inequality, and the decline of US power. It does so by critically examining major theoretical approaches and concepts.</p> <p>(和訳) この科目では、グローバル化、自由貿易、不平等、アメリカの衰退などの国際政治経済における主要なトピックスを紹介する。主要な理論的アプローチと概念を批判的に検討することによって、授業を進める。</p>	
		Sustainable Global Management	<p>Teachers of Utsunomiya University and 6 African Universities (Addis Ababa University, University of Ghana, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology, Meru University of Science and Technology, University of Dar es Salaam, Nelson Mandela African Institution of Science and Technology) give lectures on their speciality fields by relating to SDGs. Class is composed of 2-times on-time Zoom Lectures and 13 on-demand lectures by C-learning.</p> <p>(和訳) 宇都宮大学とアフリカの6大学（アディスアベバ大学、ガーナ大学、ジョモケニヤッタ農工大学、メル科学技術大学、ダルエスサラーム大学、ネルソンマンデラ・アフリカ科学技術大学院大学）の教員が、自分の専門分野の内容をSDGsと関係付けて講義を行う。授業は、2回のオンタイムのZoomによるものと、C-learningを用いた13回のオンデマンド講義で構成される。</p>	
		国際インターンシップ	<p>机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが、実際に海外の企業やNPOや公的機関（以下「企業等」と略す）などで実社会での実務を体験することも重要である。この授業では、実際に海外の企業等に赴き、経験豊富な実務者等の指導のもとに実務の一端に触れるものである。</p>	
		共生社会フィールドワーク	<p>誰もが取り残されることのない共生社会のあり方が問われるようになってきている。そこで本科目では、多文化共生について理解を深めるために、社会的に排除されやすい子どもや人々との共生をめざす活動に関わる実践現場で実習を行うことを通して、共生社会のあり方について学ぶ。本年度は主に学校外の学びの場に支援者として関わることを通して、多様な学び方や共生社会のあり方について学ぶ。実際に10回程度の実践を行う。</p>	
		臨地研究	<p>実地調査・研究を行うために必要な基礎的な知識と技能を習得する。具体的には、調査の目的、方法、実地調査、データ収集、分析などの一連のプロセスを、講義や実践とおとして体験する。具体的には、調査と倫理、調査の目的：問題意識と調査、調査の方法、調査計画の立案、実地調査、データの整理・分析・報告書の作成などの授業を計画している。</p>	
境界・学際領域科目	専攻指定科目	プロジェクトトレーニング	<p>企業の現実的な課題に対し、政府統計や協力企業提供データなどの既存データを活用し、課題発見、課題解決・意思決定、そして価値創出に至る一連のプロセスをプロジェクトマネージャーの視点から演習を行う。班に分かれて他者と協働しながら演習(データ分析やディスカッション)を行い、提案資料作成、プレゼンテーションを行う。その際、データに基づいた課題解決能力に加え、プロジェクトを成功に導くための計画力、実行力、コミュニケーション力、すなわちリーダーシップ力を向上させる。</p>	共同
		社会実装特別講義	<p>複数の実務家、有識者の講義を通して、経営に関する基礎知識、データサイエンスに関する基礎知識、工学に関する基礎知識などを学ぶ。また、組織の運営、経営における情報の役割（経営と情報、情報処理技術）、データ解析などを、具体的な事例によって理解する。</p>	共同
情報工学プログラム	プログラム専門科目	計算機アーキテクチャ論	<p>講義と演習の2部構成により行う。講義により現在のマイクロプロセッサの高性能化技術を理解し、演習により実在の命令セットを解釈し、内部でのバイブライン動作を詳細に模擬するソフトウェアエミュレータを用いて評価実験を行うことで、知識を確実にする。具体的には、定量的な設計と解析の基礎、メモリ階層の設計、命令レベル並列性とその活用、プロセッサシミュレータ演習などの授業を計画している。</p>	講義24時間 演習6時間
		進化計算論	<p>本講義では、最適化問題を解決するために必要な進化計算などのメタ戦略アルゴリズム（遺伝的アルゴリズム、焼きなまし法、Particle Swarm Optimizationなど）について学ぶ。具体的には、最適化問題とは、メタ戦略とは、遺伝的アルゴリズム(GA)、近似解法の基本運略、焼きなまし法、対話型進化計算、メタ戦略の設計例などの授業を計画している。</p>	

情報工学プログラム	プログラム専門科目	人間情報処理	<p>本講義では、人間をシステムとして捉えて、人間の情報処理機能と環境との調和について学習する。具体的には、人間の情報処理系の代表的な感覚である視覚・聴覚・触覚などの基本的な仕組みから、脳や感性の統合的な処理などを理解すると共に、それらを捉える心理・生理的測定方法について学習する。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt;</p> <p>(12 石川 智治/8回)  (第2回) 視覚の情報処理系  (第3回) 視覚における認知と工学への応用  (第6回) 触覚の情報処理系  (第7回) 触覚における認知と工学への応用  (第8回) 味覚における認知と工学への応用  (第9回) 脳の働き  (第13回) 人間情報処理系の測定法と実際3 (神経活動の測定法, 生体機能の測定法)  (第14回) 人間情報処理系の測定法と実際4 (生体機能の記述とモデル・シミュレーション)</p> <p>(23 濱村 真理子/7回)  (第1回) 講義概要と人間情報処理系の概要  (第4回) 聴覚の情報処理系  (第5回) 聴覚における認知と工学への応用  (第10回) 感性における認知  (第11回) 人間情報処理系の測定法と実際1 (人間情報処理系の見方, 心理的反応のレベル)  (第12回) 人間情報処理系の測定法と実際2 (心理物理測定法, 尺度構成法)  (第15回) 全体のまとめ</p>	オムニバス
		画像形成変換処理	<p>画像を形成する過程では、画像情報がエンコードされた信号を受信し、計算機処理により画像を復元する処理がある。本講義では画像情報を含む信号から画像を形成、復元する処理について理論的、実践的に学ぶことを目的とする。講義内容は、フーリエ変換の基礎理論、画像復元の基礎理論、逆問題の基本、ウェーブレット変換と画像処理応用、圧縮センシングにおける信号の復元、医用画像における画像処理、画像再構成処理、深層学習を利用した画像復元などである。基礎から最新の研究動向まで網羅的に理解できるよう学習する。</p>	
		光画像工学	<p>本講義では、光の特性を生かした画像として主に分光画像に焦点を当て、基礎から応用までを学ぶことを目的とし、関連する和文テキストおよび英文テキストを用いた輪講形式で進める。本講義では、画像処理の基礎技術から分光画像の撮影、データ補正技術、そして様々な分野への応用例について取り扱う。各回の輪講では、受講生が指定された章を担当し、内容を他の受講者に分かりやすく解説する。これにより、専門的な知識の習得に加え、英語文献を活用する力やプレゼンテーションスキルの向上を目指す。</p>	
		3Dグラフィックス	<p>本講義では、3Dコンピュータグラフィックスに関する基礎理論と応用技術を体系的に学習する。まず、3D空間における数理的基礎として、座標変換、ベクトル計算、行列操作の理論を習得する。次に、形状表現、質感表現、運動表現といった3D表現の要素技術について適用事例を通じて実践的に学ぶ。さらに、高度な実在感を伴う人の身体運動表現に焦点を当て、アニメーション生成技術、スケルトン法、モーションキャプチャなどの手法を取り上げる。理論と実践を通じて、3Dグラフィックスの本質を深く理解し、応用力を養うことを目指す。</p>	
		情報統計学	<p>本講義では、情報工学の基礎である確率統計の知識に基づいて、機械学習、数理最適化、数値シミュレーション、深層学習について学ぶ。実社会での仮想データを用いて、データの可視化、機械学習を用いたデータ解析、データの統計処理の手法を体験的に学ぶ。また、生態系を題材とした微分方程式の数値シミュレーション、災害時の避難における人間行動の数値シミュレーションをの可視化や解析の手法を学ぶ。また、画像所における深層学習の基礎的概念を学び、それを実践する処理を通じて構造を理解する。</p>	
		情報セキュリティ	<p>本講義では、情報セキュリティの技術的基礎である暗号、個人認証、ネットワークセキュリティなどを学ぶ。また、情報セキュリティを確保するには、専門部署が対応するだけでなく、組織全体で体系的な管理運用を行う必要があることを理解する。具体的には、導入、情報セキュリティの定義、暗号技術、ネットワークセキュリティ、コンピュータセキュリティ、個人認証とユーザブルセキュリティ、デジタル著作権管理、セキュリティマネジメントなどの授業を計画している。</p>	

情報工学 プログラム プログラム プログラム	情報工学 プログラム プログラム プログラム	情報通信システム	ひとりひとりがスマートフォンなどの情報端末を所有しつつある現在、それらを繋ぐICT(情報通信技術)とその基盤の上に立つサービスはますます重要性を増してきている。本講義はこのようなICTを支える有線通信・無線通信・放送技術を学ぶとともに、それらを用いたサービスについて最新の技術動向を含め学習する。特に、電気通信の基礎知識・通信容量を増大させる多値化変復調技術・各種通信/放送システム・シミュレーション技術などを学習する。シミュレーション技術の学習ではエクセルを使用したシミュレータ構築により通信技術の理解度を深める。	共同
		応用数学	通常の講義形式で線型代数学を講ずる。学部で修得した基本事項に続けて、抽象線型空間および線型写像の性質に焦点を当てる。線型代数学は多数の変数やデータの間を分析する基本的な道具立てであり、機械学習や最適化、主成分分析などの基礎をなす。抽象線型空間の取り扱いを学ぶことで、線形代数学の計算手法および考え方の適用範囲は大きく広がり、一見異なる対象に統一的な分析手法を適用できるようになる。そのため、線型空間および線型写像を導入し、行列による線型写像の表現を学ぶ。線型写像の基本的な特徴づけとして像と核を導入し、これらに基づいて次元定理を理解する。	
		数理科学	理工学上の多くの問題は、連立微分方程式系によって定式化されている。このような問題は厳密に解を求めることは困難である。このような一般の問題を解決するための基本的な手段を系統的に解説する。後半では理論の応用として解析力学を取り上げ、数理的な側面から力学上の問題の解決方法を修得する。解析力学によって複雑な問題、抽象的な問題、多自由度の問題など、困難が予想される問題の解決が与えられるほか、その数学的な構造は量子力学などの現代科学の基礎を与えている。量子的な問題の展望、厳密に解き得る問題への応用も概観する。	
		情報工学特別演習	指導教員とのディスカッションを通じた、情報工学分野に関する修士論文作成のための分析手法の確立と、適切な資料・データ収集方針の確定を目的とする演習科目。 研究計画の作成とその実施、不足点・失敗点の確認と研究方針の修正を繰り返し、1年次のしかるべき時期に研究計画を確定させる。研究に必要な分析手法や資料・データの探索方法を会得し、研究計画を立案・実施する能力を養う。この成果を確認するために、主任指導教員の指示のもと「研究計画発表」を行う。 なお、境界領域・学際領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。  (3 矢嶋 徹) 数理論理学、非線形波動、可積分系に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (4 伊藤 聡志) 画像信号処理、MRIやX線CTなどの画像再構成などに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (9 大津 金光) 高性能計算システムに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (11 長谷川 まどか) 画像処理、画像符号化、ユーザブルセキュリティなどに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (12 石川 智治) 感性情報学、認知科学、心理物理学、心理生理学などに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (13 小池 正史) 理論物理学、数理論理学、数理科学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (14 外山 史) 進化計算、組合せ最適化、バイオインフォマティクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

情報工学特別演習	情報工学プログラム専門科目		<p>(18 藤井 雅弘) 無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(20 森 博志) コンピュータグラフィクス、人工現実感に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(21 篠田 一馬) 画像処理、計算撮像、ナノマテリアルに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(23 濱村 真理子) 感性情報学、音響心理学、音のデザインに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(29 山登 一輝) 画像処理に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(30 鶴田 直也) コンピュータグラフィクス、計算幾何に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(26 北本 拓磨) 感性情報学、心理生理学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(31 何 元元) 感性情報学、色彩・視覚工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(5 長谷川 光司) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る音響計測、音響心理評価、感性工学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(7 河本 満) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る統計的信号処理、サービス工学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(8 田村 傑) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る知識情報に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(10 畑中 信一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るマテリアルズ・インフォマティクスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(15 佐藤 美恵) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る映像提示技術、画像処理、感性情報処理に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(17 坂巻 英一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るビジネス・アナリティクスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	
----------	---------------	--	--	--

情報工学プログラム	情報工学特別演習	プログラム専門科目	<p>(22 川面 洋平) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る数値シミュレーションを用いた非線形科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(25 吉田 聡太) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る計算科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(27 小林 玉青) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理、数理論理、物性基礎、素粒子物理、統計科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(28 熊本 真一郎) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理学、数理論理、確率論、統計科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(1 磯谷 玲) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係るアメリカ経済および金融市場・制度に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(2 白山 真一) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る財務会計・管理会計・ファイナンスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(6 大嶋 淳俊) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織行動などに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(16 加藤 弘二) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る環境資源経済学、食料消費に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(19 森田 佐知子) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る人的資源管理論、北欧及び英国の労働者教育史などに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(24 土屋 翔) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織論に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	

情報工学特別研究	情報工学特別研究	プログラム専門科目	プログラム	<p>「情報工学特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。情報工学プログラムを専攻する学生の研究テーマは、「計算機システムに関連する分野」、「感性情報工学に関連する分野」、「画像信号処理とその応用に関する分野」、「情報通信・ネットワーク技術に関連する分野」、「数理科学分野」など広範囲に渡るため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。なお、境界領域・学際的領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。指導教員が指定する2年次の適切な時期には、プログラム担当教員の参加のもと、修士論文研究の達成状況の報告を行う。</p> <p>(3 矢嶋 徹) 数理論理学, 非線形波動, 可積分系に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(4 伊藤 聡志) 画像信号処理, MRIやX線CTなどの画像再構成などに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(9 大津 金光) 高性能計算システムに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(11 長谷川 まどか) 画像処理, 画像符号化, ユーザブルセキュリティなどに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(12 石川 智治) 感性情報学, 認知科学, 心理物理学, 心理生理学などに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(13 小池 正史) 理論物理学, 数理論理学, 数理科学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(14 外山 史) 進化計算, 組合せ最適化, バイオインフォマティクスに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(18 藤井 雅弘) 無線通信システム, 高度交通システム, 位置情報システムに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(20 森 博志) コンピュータグラフィクス, 人工現実感に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(21 篠田 一馬) 画像処理, 計算撮像, ナノマテリアルに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(23 濱村 真理子) 感性情報学, 音響心理学, 音のデザインに関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(29 山登 一輝) 画像処理に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(30 鶴田 直也) コンピュータグラフィクス, 計算幾何に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p> <p>(26 北本 拓磨) 感性情報学, 心理生理学に関する研究活動を遂行し, 教員の指導のもとで成果をまとめ, 学位論文にまとめる。</p>
----------	----------	-----------	-------	---

情報工学特別研究	情報工学プログラム	プログラム専門科目	<p>(31 何 元元) 感性情報学、色彩・視覚工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(5 長谷川 光司) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る音響計測、音響心理評価、感性工学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(7 河本 満) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る統計的信号処理、サービス工学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(8 田村 傑) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る知識情報に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(10 畑中 信一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るマテリアルズ・インフォマティクスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(15 佐藤 美恵) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る映像提示技術、画像処理、感性情報処理に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(17 坂巻 英一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るビジネス・アナリティクスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(22 川面 洋平) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る数値シミュレーションを用いた非線形科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(25 吉田 聡太) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る計算科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(27 小林 玉青) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理、数理論理、物性基礎、素粒子物理、統計科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(28 熊本 真一郎) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理学、数理論理、確率論、統計科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(1 磯谷 玲) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係るアメリカ経済および金融市場・制度に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(2 白山 真一) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る財務会計・管理会計・ファイナンスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(6 大嶋 淳俊) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織行動などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(16 加藤 弘二) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る環境資源経済学、食料消費に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(19 森田 佐知子) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る人的資源管理論、北欧及び英国の労働者教育史などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(24 土屋 翔) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織論に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p>	
----------	-----------	-----------	---	--

データサイエンスプログラム	プログラム専門科目	機械学習論	本講義では、ニューラルネットワークを中心とした機械学習モデルによる回帰・分類の基礎を復習した後、モデル評価や正則化、訓練のための連続最適化、ガウス過程やブラックボックス最適化、ベイズ深層学習を通じた不確実性の評価を含む確率的モデリングの理論を学ぶ。また、データの符号化・復号化、変分オートエンコーダ、拡散モデルの基礎を修得し、これらを受講生の研究や実務に応用するための基礎数理の習得を目指す。	
		人工知能論	本講義では、人工知能 (AI) の理論と技術を体系的に学び、AIの基礎から応用まで幅広く理解を深める。機械学習や深層学習、強化学習の理論的背景を学ぶとともに、コンピュータビジョンや自然言語処理、生成AIなどの応用分野における技術の役割を探究する。また、AI倫理や社会的影響、説明可能性 (XAI: Explainable AI) といった先進的トピックも取り上げる。Pythonを用いたプログラミング演習を通じ、AIアルゴリズムの実装力を養成し、後半ではミニプロジェクトや事例研究を通じて研究的視点を磨く。本講義を通じて、受講者はAI技術の基盤スキルを習得するとともに、持続可能で倫理的なAIの発展に寄与する視座を獲得する。	
		確率統計論	今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、自然現象・社会現象に関する多種多様な大量のデータで溢れており、それらの現象を科学的に理解するためにはデータ分析が必要である。そのデータ分析では、情報学の手法によってデータを処理し、統計学を用いてデータの特徴・規則性を見つけ出し、確率論の言葉によって対象となる現象を数学的に表現する。そしてこれら一連のデータ分析プロセスは、様々な分野のデータサイエンスにおいて中心的な役割を担っている。本科目ではデータサイエンスの基盤となる確率論と統計学の理論を中心に講義形式で解説する。また、確率論の応用としての確率過程や、統計的推定や仮説検定といった実践的な統計手法についても解説する。	
		統計解析論	本講義では、データサイエンスには欠かせないデータ整理・分析に関してデータの中に潜んでいる特徴を取り出すために必要となる統計的解析手法から抽出した特徴量をどのようにすれば課題解決やサービスに活かせるようになるのか、その統計的手法まで講義する。実践的なデータ、例えば、音環境計測で得られた音時系列データや振動センサで得られた加速度時系列データに有効な特徴量抽出に係る統計的解析手法やデータ整理に活用可能となる統計的信号処理解析に関しても講義する。	
		数理モデリング	数理モデルを用いて具体的実体を記述し、数学を用いて現象を予測する能力は、理論科学や応用科学にとどまらず、社会的な要請も高い。本講義では、履修後が数理モデルを操るスキルを習得し、社会や学術研究に還元することを目指す。具体的には、以下の①～③の典型の手順について、社会現象及び、物理を代表とする科学における数理モデルの紹介や実際のモデルを用いたデータ分析を通じて、微分方程式などの数学がどのようにデータ分析に寄与するかを学修する。 ①数学を言語として現象の模型 (数理モデル) を作る。 ②現代数学の力を用いて数理モデルの性質を調べる。 ③数理モデルから得られた結果と現実との対比検証を実験・観察を通じて行う。	
		応用数値解析	本講義では、科学技術計算に必要な数値解析の理論と実装方法を学ぶ。まず数値解析の概要と応用例を紹介し、非線形方程式の解法 (二分法、ニュートン法など) や連立一次方程式の解法 (共役勾配法) の基礎を学ぶ。続いて、常微分方程式の数値解法として、初期値問題 (オイラー法、ルンゲクッタ法、線形多段法) と境界値問題・固有値問題を扱う。さらに、偏微分方程式の数値解法として、拡散方程式、ポアソン方程式、移流方程式を学び、高速フーリエ変換とスペクトル法について解説する。各トピックでは理論的な講義に加え、プログラミング演習を通じて実践的なスキルを習得する。最後に並列計算について学び、より効率的な数値計算の手法を理解する。	
応用実践データサイエンス	近年、企業に蓄積されたビッグデータを解析し、得られた知見を基に企業の経営改善に活用する取り組みが様々な業界において行われているが、この講義では特に流通小売業界と金融業界に焦点を当てた講義を実施する。講義の前半では受講者にPOSデータを配布した上で、小売業界で日々行われているABC分析、DECILE分析といった分析手法の学習、及び、これらの分析結果を基にした経営戦略の立案に取り組んでもらう。講義の後半では銀行におけるクレジットデータを配布した上で演習を行う。講義は2変数間の関連性等に関する統計学の復習から入り、個人属性を基にデフォルト予測を行うモデルの構築をテーマに進める。			

データサイエンスプログラム	プログラム専門科目	人間情報解析	最初に、確率統計を復習した後、仮説検定に不可欠な、標準誤差、統計的有意、効果量、信頼区間について学ぶ。その後、人間に関わるデータを対象として、t検定や分散分析を、様々な条件下での実例を挙げながら学習する。最後に、受講生が各自の目的に合わせて学んだことを活用できるよう、全授業を振り返る。 具体的には、標準誤差、統計的有意、効果量、信頼区間、t検定、分散分析などの知識と技術を習得する。	
		音響情報解析	本講義では、音響信号の解析手法について学ぶことを目的としている。まず、音およびその知覚に関する基礎的な事項（音圧、音圧レベル、粒子速度、周波数、聴覚、最小可聴値、最大可聴値、ラウドネスなど）に関する解説及びベクトル演算に関する復習および演習を行う。次に、音波の基礎方程式（連続の式、運動方程式、状態方程式）の導出を行い、平面波、円筒波、および球面波の伝搬解析について解説する。最後に、音場の再現手法について学ぶ。	
		知識情報論	知識を情報として取り扱い、知識間の関連性について分析を行う研究は、データサイエンスの重要な一領域となっている。本講義では、知識源を情報として取り扱うための学術的および実務的な概念や枠組みについて、データマネジメントの観点から学ぶ。さらに、データサイエンスにおいて重要な分析対象とされる公的統計データの利用や分析方法についても学ぶ。これらの学修を通じて、各種データを組み合わせて活用し、新たな知識を創出するための基盤を俯瞰的に理解する。	
		データサイエンス特別演習	指導教員とのディスカッションを通じた、データサイエンス分野に関する修士論文作成のための分析手法の確立と、適切な資料・データ収集方針の確定を目的とする演習科目。 研究計画の作成とその実施、不足点・失敗点の確認と研究方針の修正を繰り返し、1年次のしかるべき時期に研究計画を確定させる。研究に必要な分析手法や資料・データの探索方法を会得し、研究計画を立案・実施する能力を養う。この成果を確認するために、主任指導教員の指示のもと「研究計画発表」を行う。なお、境界領域・学際的領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。  (5 長谷川 光司) 音響計測、音響心理評価、感性工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (7 河本 満) 統計的信号処理、サービス工学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (8 田村 傑) 知識情報に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (10 畑中 信一) マテリアルズ・インフォマティクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (15 佐藤 美恵) 映像提示技術、画像処理、感性情報処理に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (17 坂巻 英一) ビジネス・アナリティクスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (22 川面 洋平) 数値シミュレーションを用いた非線形科学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。  (25 吉田 聡太) 計算科学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。	

データサイエンスプログラム	データサイエンス特別演習		<p>(27 小林 玉青) 理論物理, 数理論, 物性基礎, 素粒子物理, 統計科学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに, 学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(28 熊本 真一郎) 理論物理学, 数理学, 確率論, 統計科学に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに, 学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(3 矢嶋 徹) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る数理論物理学, 非線形波動, 可積分系に関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(4 伊藤 聡志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像信号処理, MRIやX線CTなどの画像再構成などに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(9 大津 金光) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る高性能計算システムに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(11 長谷川 まどか) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理, 画像符号化, ユーザブルセキュリティなどに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(12 石川 智治) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学, 認知科学, 心理物理学, 心理生理学などに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(13 小池 正史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る理論物理学, 数理論物理学, 数理学に関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(14 外山 史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る進化計算, 組合せ最適化, バイオインフォマティクスに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(18 藤井 雅弘) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る無線通信システム, 高度交通システム, 位置情報システムに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(20 森 博志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィクス, 人工現実感に関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(21 篠田 一馬) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理, 計算撮像, ナノマテリアルに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(23 濱村 真理子) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報工学, 音響心理学, 音のデザインに関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(29 山登 一輝) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理に関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(30 鶴田 直也) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィクス, 計算幾何に関する観点から, 研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて, 学際的思考力, コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	
---------------	--------------	--	---	--

データサイエンスプログラム	プログラム専門科目	データサイエンス特別演習	<p>(26 北本 拓磨) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、心理生理学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(31 何 元元) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、色彩・視覚工学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(1 磯谷 玲) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係るアメリカ経済および金融市場・制度に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(2 白山 真一) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る財務会計・管理会計・ファイナンスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(6 大嶋 淳俊) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織行動などに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(16 加藤 弘二) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る環境資源経済学、食料消費に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(19 森田 佐知子) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る人的資源管理論、北欧及び英国の労働者教育史などに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(24 土屋 翔) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織論に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	
		データサイエンス特別研究	<p>「データサイエンス特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。データサイエンスプログラムを専攻する学生の研究テーマは、「感性工学に関連する分野」、「サービス工学に関連する分野」、「情報科学に関連する分野」、「計算科学に関連する分野」、「数理科学に関連する分野」など広範囲に渡るため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。なお、境界領域・学際領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。指導教員が指定する2年次の適切な時期には、プログラム担当教員の参加のもと、修士論文研究の達成状況の報告を行う。</p> <p>(5 長谷川 光司) 音響計測、音響心理評価、感性工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(7 河本 満) 統計的信号処理、サービス工学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(8 田村 傑) 知識情報に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(10 畑中 信一) マテリアルズ・インフォマティクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(15 佐藤 美恵) 映像提示技術、画像処理、感性情報処理に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

データサイエンスプログラム	プログラム専門科目	データサイエンス特別研究	<p>(17 坂巻 英一) ビジネス・アナリティクスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(22 川面 洋平) 数値シミュレーションを用いた非線形科学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(25 吉田 聡太) 計算科学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(27 小林 玉青) 理論物理、数理論理、物性基礎、素粒子物理、統計科学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(28 熊本 真一郎) 理論物理学、数理学、確率論、統計科学に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(3 矢嶋 徹) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る数理論理、非線形波動、可積分系に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(4 伊藤 聡志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像信号処理、MRIやX線CTなどの画像再構成などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(9 大津 金光) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る高性能計算システムに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(11 長谷川 まどか) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理、画像符号化、ユーザブルセキュリティなどに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(12 石川 智治) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、認知科学、心理物理学、心理生理学などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(13 小池 正史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る理論物理学、数理論理学、数理学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(14 外山 史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る進化計算、組合せ最適化、バイオインフォマティクスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(18 藤井 雅弘) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(20 森 博志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィックス、人工現実感に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(21 篠田 一馬) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理、計算撮像、ナノマテリアルに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(23 濱村 真理子) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報工学、音響心理学、音のデザインに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(29 山登 一輝) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p>	
---------------	-----------	--------------	--	--

データサイエンスプログラム	プログラム専門科目	データサイエンス特別研究	<p>(30 鶴田 直也) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィクス、計算幾何に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(26 北本 拓磨) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、心理生理学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(31 何 元元) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、色彩・視覚工学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(1 磯谷 玲) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係るアメリカ経済および金融市場・制度に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(2 白山 真一) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る財務会計・管理会計・ファイナンスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(6 大嶋 淳俊) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織行動などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(16 加藤 弘二) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る環境資源経済学、食料消費に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(19 森田 佐知子) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る人的資源管理論、北欧及び英国の労働者教育史などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(24 土屋 翔) 境界領域・学際領域の経営情報学分野に係る組織論に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p>	
		経営とデータサイエンス	<p>「経営とデータサイエンス」は、経営学とデータサイエンスの統合的視点を学ぶことを目的とした授業である。本授業では、会計、マーケティング、組織論、人的資源管理といった経営学の主要領域と金融論、経済学といった関連領域において、データサイエンスがどのように応用されているかを解説する。それぞれのテーマごとに理論的背景と実務での活用事例を取り上げ、経営課題の解決におけるデータサイエンスの役割を理解する。また討議や発表を通じて、経営とデータサイエンスを組み合わせた独自の分析視点を深める。</p> <p>&lt;オムニバス方式/全15回&gt;</p> <p>(19 森田 佐知子/5回 (うち1回共同)) (第1回) オリエンテーション (第8回) 企業におけるDXの実際 (共同) (第13回) 人事管理とデータサイエンス (第14回) 人材採用・キャリア開発におけるテクノロジーの活用 (第15回) まとめ</p> <p>(16 加藤 弘二/3回 (うち1回共同)) (第2回) 社会科学におけるデータの特徴と扱い方 (第3回) 経済モデルと計量経済分析 (第8回) 企業におけるDXの実際 (共同)</p> <p>(6 大嶋 淳俊/2回) (第4回) デジタルマーケティングとデータサイエンス (第5回) リーダーシップ開発とデータサイエンス</p> <p>(1 磯谷 玲/2回) (第6回) 経営と金融 (第7回) 金融とデータサイエンス</p> <p>(2 白山 真一/2回) (第9回) 管理会計の諸側面とデータサイエンス—会計情報と内部管理の視点— (第10回) 企業価値評価とデータサイエンス—会計情報と外部評価の視点—</p> <p>(24 土屋 翔/2回) (第11回) システムとしての組織論 (第12回) データから見る組織と個人の関係</p>	オムニバス・共同 (一部)

経営情報学プログラム	プログラム専門科目	人材育成とキャリア開発	<p>本授業では、人材育成とキャリア開発に関する理論を体系的に学ぶ。具体的には、日本の人材育成システムの特徴を起点に、採用、組織社会化、職場学習、実践共同体、越境学習、キャリア理論、テクノロジーなどを取り上げ、現代企業における人材育成とキャリア開発の課題を考察する。この授業では、従来の一つの組織内における従業員の学習やキャリア開発に加え、個人が組織の境界を超えて行う学習や社会関係資本の獲得、キャリア移行にも焦点を当てることを特徴とする。また、討議や発表を通じて得た知見を多角的に整理・分析し、それらを自身の研究領域に理論的・実践的に結び付ける能力を養うことを目指す。</p>	
		デジタルマーケティング	<p>本授業の前半では、デジタル技術を活用したマーケティングに関する概念や理論的思考を学ぶ。具体的には、動画・SNSなどを活用した情報発信手法や、各種データの収集・分析方法について考察する。本講義の後半では前半の学習の応用として、地域の観光促進に資するデジタルマーケティング施策案を作成・発表する。これにより理論と実践を結び付ける能力を養うことを目指す。</p>	
		マネジメントアカウンティング・ファイナンス論	<p>ビジネスアカウンティングおよびファイナンスについて、最高財務責任者(CFO)のような立場から包括的に理解するためには、その基盤として、財務会計・管理会計・ファイナンスの3つの領域を体系的に理解できる能力が必要である。</p> <p>具体的には、①会計情報を通じた企業外部の利害関係者との相互作用という財務会計の観点から、現行の会計基準を本質的に理解したうえで「考察力」、②企業内部におけるマネジメントコントロールの観点から、管理会計手法の応用的な「創造力」、③ファイナンスの観点から、財務マネジメントデータの活用および当該データに係る資本市場における評価の仕組み等についての「洞察力」が必要となる。</p> <p>本講義ではこれらの3つの領域について、重要論点に焦点を絞ったうえで、本質的かつ応用的な総合力を修得するため、学術的かつ実務的なフロンティアを意識した融合的な講義を行う。</p> <p>まず財務会計領域では、概念的アプローチにより、企業会計制度の根底にある会計学の基礎概念や会計理論などについて、IFRS概念フレームワーク、現行の会計基準の形成に至るまでの会計学説の変遷（取得原価主義会計から時価主義会計への会計学説の変遷、公正価値学説等）を検討する。次に管理会計領域では、実証的アプローチにより、実務的かつ応用的な事例研究として、コスト・マネジメントの実際、マルチプルキャピタル・マネジメントの実際（統合報告の活用による管理会計の高度化等）を検討する。最後にファイナンス領域では、実務的アプローチにより、会計情報と資本市場との相互作用に焦点をあて、応用的な財務分析手法、株価形成や企業価値評価等を検討する。</p>	
		競争戦略論	<p>競争戦略はさまざまな領域で関心を持たれる概念であり、多様な規模や形態（地域、国家、国内地域、機関、個人など）における行動を分析する手法の体系と考えらる。競争戦略は過度に一般化できるものではなく、さまざまな要因によって個別具体的に最適な場合が異なる。本講義では、代表的な古典的モデルの枠組みとその決定要因について学修する。さらに、これらを踏まえて、主体の行動を俯瞰し、戦略の最適化の観点から分析・立案を行う手法について学修する。</p>	
		金融仲介と制度	<p>金融は経済活動において必須の領域である。その活動は基本的に民間営利企業によって担われるが、公共的な性格を持つことから非常に厳しい規制・監督が行われることが大きな特徴である。したがってまた規制の在り様は金融機関の経営にも大きな影響を与えることになる。</p> <p>本講義は1980年代以降のアメリカ経済や金融を主な対象として（1）金融に関わる制度の概要と変遷、（2）経済活動と金融との関係、（3）金融機関経営等について講義する。（3）については監督機関であるFRBやFDIC等によって集約・公表されているデータを用い、データの特長、利用法等も含めて扱う。これらの学習を通じて持続可能な豊かな地域社会の創生を支えるための、情報経営学部の知識や分析能力を涵養する。</p>	
組織システム論	<p>経営組織そのものの原理原則について展開する。組織は何のために存在し、どのような原理で存在するかについて多角的に考察をする。具体的には、以下の視点を中心として展開する。1）組織持続性のメカニズム、2）個人と組織との関係、3）組織における内と外、4）全体と部分である。以上により、現代社会のメインプレーヤーである組織について理解を深める。</p>			

経営情報学プログラム	プログラム専門科目	計量経済分析	計量経済分析は、経済・社会統計や調査などから得られるデータを用いて、経済の動向やそこで活動する企業・消費者の実態を明らかにするものであり、経営学や経済学において理論と現実をつなぐ役割を担っている。この授業では、経営学や経済学、関連する社会科学分野における実証分析で用いられる計量経済分析の手法を学び、データと計量ソフトウェアを用いて実際に推計を行うことにより、修士論文を作成する際に必要となる実証分析を行う力を養う。	
		地域起業論	地域社会が有する資源の本質的な価値を理解する洞察力と地域が有するポテンシャルを有効に発揮する考察力について講義と議論を通して習熟し、地域に新たな富を生み出す創造力を修得することを目指す。「地域資源の活用」「地域社会の活性化」「地域イノベーション」に関わる知識に加え、実例を題材とする議論を通して、地域資源を基にした地域創生の事案が持つ本質的な意義と価値を理解し、自ら考える力を養成することを促す。	
		経営情報学特別演習	<p>指導教員とのディスカッションを通じた、経営情報学分野における修士論文作成のための分析手法の確立と、適切な資料・データ収集方針の確定を目的とする演習科目。</p> <p>研究計画の作成とその実施、修正必要箇所の確認と研究方針の更新を繰り返し、1年次後期の間に研究計画を確定させる。</p> <p>研究に必要な分析手法や資料・データの探索方法を会得し、研究計画を立案・実施する能力を養う。この成果を確認するために、主指導教員の指示により「研究計画発表会（中間報告会）」を実施する。なお、境界領域・学際領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。</p> <p>(1 磯谷 玲) アメリカ経済および金融市場・制度に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(2 白山 真一) 財務会計・管理会計・ファイナンスに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(6 大嶋 淳俊) 組織行動などに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(16 加藤 弘二) 環境資源経済学、食料消費に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(19 森田 佐知子) 人的資源管理論、北欧及び英国の労働者教育史などに関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(24 土屋 翔) 組織論に関する論文を調査し課題解決手法を学ぶとともに、学生や教員等との討論を通じて実践的なコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(3 矢嶋 徹) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る数理物理学、非線形波動、可積分系に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(4 伊藤 聡志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像信号処理、MRIやX線CTなどの画像再構成などに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(9 大津 金光) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る高性能計算システムに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	

経営情報学 プログラム プログラム プログラム	経営情報学特別演習		<p>(11 長谷川 まどか) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理、画像符号化、ユーザブルセキュリティなどに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(12 石川 智治) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、認知科学、心理物理学、心理生理学などに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(13 小池 正史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る理論物理学、数理物理学、数理学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(14 外山 史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る進化計算、組合せ最適化、バイオインフォマティクスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(18 藤井 雅弘) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(20 森 博志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィックス、人工現実感に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(21 篠田 一馬) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理、計算撮像、ナノマテリアルに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(23 濱村 真理子) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、音響心理学、音のデザインに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(29 山登 一輝) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(30 鶴田 直也) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィックス、計算幾何に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(26 北本 拓磨) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、心理生理学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(31 何 元元) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、色彩・視覚工学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(5 長谷川 光司) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る音響計測、音響心理評価、感性工学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	
	経営情報学 プログラム プログラム プログラム			

経営情報学プログラム	プログラム専門科目	経営情報学特別演習	<p>(7 河本 満) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る統計的信号処理、サービス工学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(8 田村 傑) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る知識情報に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(10 畑中 信一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るマテリアルズ・インフォマティクスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(15 佐藤 美恵) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る映像提示技術、画像処理、感性情報処理に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(17 坂巻 英一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るビジネス・アナリティクスに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(22 川面 洋平) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る数値シミュレーションを用いた非線形科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(25 吉田 聡太) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る計算科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(27 小林 玉青) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理、数理物理、物性基礎、素粒子物理、統計科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(28 熊本 真一郎) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理学、数理科学、確率論、統計科学に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(63 杉田 直樹) 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農産物マーケティング、農産物ブランド、地域ブランドに関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p> <p>(59 福田 竜一) 境界領域・学際領域の農業・農村経済学分野に係る農畜産物貿易、協同組合、持続可能な観光に関する観点から、研究テーマ等に関する学生や教員等との討論を通じて、学際的思考力、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を修得する。</p>	
		経営情報学特別研究	<p>「経営情報学特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。経営情報学プログラムを専攻する学生の研究テーマは、経営組織、マーケティング、人材育成、会計、金融制度、地域経済などと広範囲に渡るため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。なお、境界領域・学際領域の観点から、研究対象技術の異分野への応用に関するディスカッション等も含む。成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。指導教員が指定する2年次の適切な時期には、プログラム担当教員の参加のもと、修士論文研究の達成状況の報告を行う。</p> <p>(1 磯谷 玲) アメリカ経済および金融市場・制度に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p>	

経営情報学プログラム	経営情報学プログラム プログラム専門科目	経営情報学特別研究	<p>(2 白山 真一) 財務会計・管理会計・ファイナンスに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(6 大嶋 淳俊) 組織行動などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(16 加藤 弘二) 環境資源経済学、食料消費に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(19 森田 佐知子) 人的資源管理論、北欧及び英国の労働者教育史などに関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(24 土屋 翔) 組織論に関する研究活動を遂行し、教員の指導のもとで成果をまとめ、学位論文にまとめる。</p> <p>(3 矢嶋 徹) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る数理物理学、非線形波動、可積分系に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(4 伊藤 聡志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像信号処理、MRIやX線CTなどの画像再構成などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(9 大津 金光) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る高性能計算システムに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(11 長谷川 まどか) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理、画像符号化、ユーザブルセキュリティなどに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(12 石川 智治) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、認知科学、心理物理学、心理生理学などに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(13 小池 正史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る理論物理学、数理物理学、数理科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(14 外山 史) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る進化計算、組合せ最適化、バイオインフォマティクスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(18 藤井 雅弘) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る無線通信システム、高度交通システム、位置情報システムに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(20 森 博志) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィクス、人工現実感に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(21 篠田 一馬) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理、計算撮像、ナノマテリアルに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(23 濱村 真理子) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報工学、音響心理学、音のデザインに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(29 山登 一輝) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る画像処理に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(30 鶴田 直也) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係るコンピュータグラフィクス、計算幾何に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p>	

経営情報学プログラム	プログラム専門科目	経営情報学特別研究	<p>(26 北本 拓磨) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、心理生理学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(31 何 元元) 境界領域・学際領域の情報工学分野に係る感性情報学、色彩・視覚工学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(5 長谷川 光司) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る音響計測、音響心理評価、感性工学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(7 河本 満) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る統計的信号処理、サービス工学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(8 田村 傑) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る知識情報に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(10 畑中 信一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るマテリアルズ・インフォマティクスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(15 佐藤 美恵) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る映像提示技術、画像処理、感性情報処理に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(17 坂巻 英一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係るビジネス・アナリティクスに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(22 川面 洋平) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る数値シミュレーションを用いた非線形科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(25 吉田 聡太) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る計算科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(27 小林 玉青) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理、数理論理、物性基礎、素粒子物理、統計科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(28 熊本 真一郎) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る理論物理学、数理論理、確率論、統計科学に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(63 杉田 直樹) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る農産物マーケティング、農産物ブランド、地域ブランドに関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p> <p>(59 福田 竜一) 境界領域・学際領域のデータサイエンス分野に係る農畜産物貿易、協同組合、持続可能な観光に関する観点から、研究活動について教員の指導のもとで成果を学位論文にまとめる。</p>	
------------	-----------	-----------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

国立大学法人宇都宮大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度		入 定	編入 定	学 員	収 容	令和8年度		入 定	編入 定	学 員	収 容	変更の事由
<b>宇都宮大学</b>												
データサイエンス経営学部	3年次					データサイエンス経営学部	3年次					
データサイエンス経営学科	55	3		226		データサイエンス経営学科	55	3		226		
地域デザイン科学部	3年次					地域デザイン科学部	3年次					
コミュニティデザイン学科	47	-		188	→	コミュニティデザイン学科	47	-		188		
建築都市デザイン学科	47	3		194		建築都市デザイン学科	47	3		194		
社会基盤デザイン学科	37	3		154		社会基盤デザイン学科	37	3		154		
国際学部	3年次					国際学部	3年次					
国際学科	84	10		356		国際学科	84	10		356		
共同教育学部						共同教育学部						
学校教育教員養成課程	170	-		680	→	学校教育教員養成課程	170	-		680		
工学部	3年次					工学部	3年次					
基盤工学科	290	26		1,212	→	基盤工学科	290	26		1,212		
農学部						農学部						
生物資源科学科	58	-		232		生物資源科学科	0	-		0		令和8年4月学生募集停止
応用生命化学科	30	-		120		応用生命化学科	0	-		0		令和8年4月学生募集停止
農業環境工学科	30	-		120		農業環境工学科	0	-		0		令和8年4月学生募集停止
農業経済学科	33	-		132		農業経済学科	0	-		0		令和8年4月学生募集停止
森林科学科	29	-		116	→	森林科学科	0	-		0		令和8年4月学生募集停止
						<u>フロンティア食品科学科</u>	<u>37</u>	-		<u>148</u>		学部の設置(届出)
						<u>生物生産イノベーション科学科</u>	<u>56</u>	-		<u>224</u>		学部の設置(届出)
						<u>環境システム科学科</u>	<u>51</u>	-		<u>204</u>		学部の設置(届出)
						<u>エコロジカル社会経済学科</u>	<u>36</u>	-		<u>144</u>		学部の設置(届出)
(3年次編入学)	-	3年次		30		(3年次編入学)	-	3年次		15	30	
計	910	60		3,760		計	910	60		3,760		
<b>宇都宮大学大学院</b>												
地域創生科学研究科						地域創生科学研究科						
社会デザイン科学専攻(博士前期課程)	77	-		154	→	<u>総合情報学専攻(博士前期課程)</u>	<u>61</u>	-		<u>122</u>		<u>研究科の専攻の設置(届出)</u> <u>定員変更(20)(概算要求)</u>
工農総合科学専攻(博士前期課程)	258	-		516		社会デザイン科学専攻(博士前期課程)	77	-		154		
先端融合科学専攻(博士後期課程)	25	-		75		<u>工農総合科学専攻(博士前期課程)</u>	<u>217</u>	-		<u>434</u>		<u>定員変更(△41)</u>
教育学研究科						先端融合科学専攻(博士後期課程)	25	-		75		
教育実践高度化専攻(専門職学位課程)	18	-		36	→	教育学研究科						
						教育実践高度化専攻(専門職学位課程)	18	-		36		
計	378	-		781		計	398	-		821		